

3 看護研究発表会

第 26 回事例研究発表会(1 日目) 令和 6 年 1 月 20 日(土) 8:40~16:10

講師 川崎市立看護大学 講師 五味 麻美 先生

出生後、児に外表奇形があると知った母親の心理的变化 ～生殖補助医療により妊娠した A 氏との関わりを振り返って～	8階北病棟 大野 碧海
母子分離中における児の障害の受容過程と母親への心理的支援	8階北病棟 北澤 水季
身体抑制が必要な認知症高齢者との関りを通じて学んだこと -苦痛を軽減し人としての尊厳を守るために看護師ができる事-	10 階北病棟 戸森 有咲
術後から意欲低下がみられた認知症患者への自身の看護を振り返って	10 階北病棟 佐々木 萌依
身体的苦痛や不安が強い超高齢者の ADL 回復に向けた看護	10 階北病棟 太田 梨乃

川崎市立看護大学 講師 永田 智子 先生

緊急手術により人工肛門を造設した患者の身体的・精神的な受け止めと 受容過程	11 階北病棟 馬場 春加
がん末期患者への看護を通して学んだこと～残りの時間をどのように過 ごすか選択するために看護師ができること～	11 階北病棟 名取 美空
認知機能が低下した高齢者とのコミュニケーションについて ～転倒場面を振り返って～	10 階南病棟 魚住 真央
認知症患者との関わりについて看護を振り返る ～BPSD の悪化を防ぐことができた関わり方～	10 階南病棟 細谷 実紀
陥没乳頭により直接授乳困難であった事例を振り返って ～授乳に対する意思決定支援～	8階北病棟 前川 楓
母子分離状態が在日外国人の母親に与える心理的影響と看護	8階西病棟 尾上 里美

講師 川崎市立看護大学 教授 廣川 聖子 先生

癌により身体機能と思いに差が生じた患者への関わり ～先行文献にて現状を受容するための看護を明らかにする～	13 階南病棟 廣瀬 結菜
終末期患者の退院支援において必要な看護師の関わり ～本人が望む場所での療養を叶えるために自分の看護を振り返る～	13 階南病棟 吉田 彩花
認知症の既往がある患者への看護 ～経口摂取ができない患者との関わりを通して～	12 階北病棟 篠原 凜
緊急気管切開術となった患者への看護 ～術後不安を表出した患者との関わりについて～	12 階北病棟 山本 花佳
苦手意識があった不穏行動をとる嚔の患者との関りを振り返る	12 階南病棟 田島 叶萌
構音障害がある ALS 患者とのコミュニケーション方法を振り返る	12 階南病棟 橋本 華奈

講師 川崎市立看護大学 講師 青木 恵美子 先生

病院で看取る家族に対する看護 ～終末期がん患者との関わりを通して～	11 階北病棟 石和 香乃
高齢者のストーマ管理手技獲得に向けた患者との関わり	12 階北病棟 鈴木 あゆみ
疼痛を訴える患者との関わりについて ～精神的苦痛を緩和することの重要性～	11 階南病棟 板山 留実
スピリチュアルペインが生じている患者との関わり ～傾聴する事の意味～	11 階南病棟 桐村 瞳
認知機能低下のある高齢患者とのかかわり ～せん妄と自尊感情の関連～	11 階南病棟 倉又 彩音

第 26 回事例研究発表会(2 日目) 令和 6 年 1 月 27 日(土) 8:40～16:10

講師 神奈川県立保健福祉大学 准教授 小林 珠実 先生

抗がん剤治療により自尊心が低下した患者との関わりを通して学んだこと～患者の自己効力感を高めるケアについて～	14 階南病棟 山田 彩乃
食事拒否のある認知症患者への関わり ～パーソン・センタード・ケアを活かした介入について～	14 階南病棟 渡邊 愛花
癌末期の患者に対する介入方法 ～死の受容ができていない患者との関わりを振り返って～	11 階北病棟 五十嵐 茜里
ストーマを造設後、ボディイメージの変化の受容が難しかった患者との関わりを通して学んだこと	11 階北病棟 根岸 理彩子
壮年期にあるがん患者をケアする看護師のジレンマ ～拒否を示す患者への看護～	11 階南病棟 内田 海優

講師 川崎市立看護大学 教授 掛田 崇寛 先生

内服アドヒアランス不良の心不全患者への看護介入	13 階北病棟 松田 奈緒
精神疾患のある終末期患者の痛みを通じて学んだこと	13 階北病棟 安田 一真
重症患者の社会復帰に向けた ICU での早期からの取り組み ～ケアバンドルを活用して～	ICU・CCU 病棟 梅津 里彩
緊急入院患者に現状認知を促す関わり ～抜管時の対応から振り返る～	ICU・CCU 病棟 赤津 祐希
意思決定支援における手術室看護師としての役割 ～A 氏との関りを振り返って周術期看護を考える～	手術室 徳田 莉子

講師 川崎市立看護大学 教授 田中 千代 先生

胃瘻造設に対して迷いがあった高齢患者との意思決定場面における看護師の振り返り	14 階北病棟 齋藤 琴美
筋萎縮性側索硬化症患者の受容過程と看護支援	14 階北病棟 鈴木 愛理
高齢者糖尿病の教育目的で入院となったかたとの関わりの振り返り	14 階北病棟 堀 寿々蘭
学童のセルフケア獲得に関する看護について ～尿路感染症で入院を繰り返す学童とのかかわりから検討する～	8 階南病棟 末永 早霧
子どもが先天性疾患と診断された家族とのコミュニケーションについての振り返り	8 階南病棟 芹澤 玲奈
幼児に対するプレパレーション方法の検討 ～点滴刺入部の処置や観察、抗生剤投与に対し拒否の強い児へのかかわり～	8 階南病棟 池田 明佳

講師 川崎市立看護大学 教授 湊田 英津子 先生

看護師の関わりによる暴言・暴力、易怒性のある患者の変化	13 階南病棟 岩原 茜
怒りの感情が強い患者に対する排泄ケアの介入効果	13 階南病棟 飯島 真紀子
ADL が低下しており食事拒否がある高齢者への看護	13 階南病棟 谷 柚生花
終末期患者と医療者の相違があった際の関わり	12 階南病棟 松原 由茉
離床に拒否があった患者の排泄動作への看護	12 階南病棟 吉開 愛海

4 研 修

令和5年度 川崎市病院局主催看護職員研修 実績

研修名	日時	講師	受講者数	
			川崎病院	
新人研修	新規採用看護職員研修	4/4(火) 4/5(水) 4/14(金)	病院局 事業管理者、局長他	75
	夜勤に向けたフィジカルアセスメント研修①	6/2(金)	井田病院 主任 吉田 龍也	67
	専門職としての学び	11/7(火)	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センターほか 非常勤講師 植垣 一彦	58
	新人のためのフィジカルアセスメント研修②	12/9(土)	井田病院 主任 吉田 龍也 講師補佐 田村 桂子	58
	2年目に向けたステップアップ研修	令和6年 2/8(木)	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センターほか 非常勤講師 植垣 一彦 川崎病院副主任 鶴巻 元子 井田病院副主任 春田 朋則	55
2年目研修	受持ち看護師役割研修	6/21(水)	川崎病院 副主任 青木 夏代	48
	受け持ち看護師のための フィジカルアセスメント研修	11/2(木)	井田病院 主任 吉田 龍也 講師補佐 横塚 清美	43
リーダー育成研修	リーダー役割準備研修【概論編】【実践編】	11/27(月)	【概論編】東京医療保健大学 教授 末永 由里 【実践編】川崎病院主任 金子 幸絵	43
	チームにおけるリーダー役割研修	10/21(土)	国立看護大学校 講師 藤澤 雄太	23
	看護単位リーダー研修① (令和5年度担当者)	3/10(金)	東京医療保健大学 教授 末永 由里	21
	看護単位リーダー研修②	6/16(金)	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センターほか 非常勤講師 植垣 一彦	23
	看護単位リーダー研修③	12/15(金)	両院看護部 ファシリテーター	23
指導者育成教育	新人実地指導者研修① (令和5年度担当者)	3/3(金)	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センターほか 非常勤講師 植垣 一彦	30
	新人実地指導者研修②	2/16(金)	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センターほか 非常勤講師 植垣 一彦	28
	臨地実習指導者研修①	4/21(金)	川崎市立看護短期大学 准教授 牛尾 陽子	24
	臨地実習指導者研修②	令和6年 2/6(火)	川崎市立看護短期大学 准教授 牛尾 陽子	24
看護記録研修	看護記録監査研修	7/15(土)	前駒沢女子大学 教授 滝島 紀子	28
	看護過程研修(基礎編)	7/1(土)	川崎市立看護大学 名誉教授 野村 明美 教授 佐藤 文	67
	看護過程研修(応用編)	5/27(土)	川崎市立看護大学 名誉教授 野村 明美 教授 佐藤 文	43
	看護過程研修(臨床推論)	10/14(土)	川崎市立看護大学 名誉教授 野村 明美 教授 佐藤 文	23
看護倫理研修	看護倫理研修	令和6年 1/30(火)	聖路加国際大学 教授 鶴若 麻理	24
看護管理者研修	看護管理者研修	11/12(日)	人材育成計画検討会議メンバー	16
			合計	844

令和5年度 院内研修実績(看護教育委員会)

	日付	研修名	対象カテゴリー	参加人数(名)
4月	3日	入職ガイダンス①	新人	75
	6日	入職ガイダンス②	新人	75
	7日	入職ガイダンス③	新人	75
	10日	看護技術演習(移動介助)	新人	71
	14日	看護補助者活用推進研修	新人	74
	17日	看護技術演習(体位変換・ポジショニング・排泄介助)	新人	71
	24日	看護技術演習(食事介助・経管栄養)	新人	71
	8日	看護技術演習(酸素吸入・ネブライザー・吸引)	新人	71
	15日	看護技術演習(静脈注射・採血)	新人	71
	22日	安全な看護を提供するために①(与薬)	新人	73
5月	25日	早期リハビリFIM説明	新人	68
	29日	看護技術演習(BLS)	新人	71
	5日	医療関連感染を防止するために	新人	69
	12日	静脈注射テスト	新人	65
	21日	静脈注射テスト:再テスト	新人	2
6月	23日	家族看護①	3年目	42
	26日	急変時対応研修/ACLS上級編	Ⅳ～Ⅴ	19
	29日	転倒転落におけるKYT	新人	67
7月	7日	急変時対応研修/ACLS中級編	Ⅱ・Ⅲ	26
	10日	認知症看護	新人	64
8月	7日	コミュニケーションスキルを学ぶ①&同期会	新人	61
	18日	意思決定支援研修①	Ⅲ以上	25
9月	1日～30日	看護補助者活用推進研修(ナーシングスキル)	全看護職員	569
10月	2日	コミュニケーションスキルを学ぶ②&同期会	新人	58
	13日	入退院を繰り返す患者の看護ケア研修①	Ⅲ以上	18
12月	4日	急変時対応研修/ACLSフォローアップ編	Ⅱ以上	44
	8日	入退院を繰り返す患者の看護ケア研修②	Ⅲ以上	18
	11日	家族看護②	3年目	42
令和6年 1月	5日	急変時対応研修/ACLS初級編	新人	56
	25日	訪問看護ステーション研修～フォローアップ編～	局研修参加者	21
	30日	即実践に活かせる研修～スペシャリストに教わろう～	全看護職員	603
2月	2日	意思決定支援研修②	Ⅲ以上	25
全32回開催			合計	2760

5 各科別実習状況報告

科・部	学校・病院名	人数	科・部	学校・病院名	人数
内科	愛知医科大学	1名	内科	北海道大学	4名
	秋田大学	2名		宮崎大学	2名
	大阪大学	1名		山梨大学	1名
	大阪公立大学	1名		横浜市立大学	5名
	岡山大学	1名		琉球大学	1名
	佐賀大学	1名	外科	香川大学	1名
	札幌医科大学	1名		金沢大学	1名
	滋賀医科大学	1名		京都大学	3名
	鹿児島大学	1名		杏林大学	2名
	金沢大学	1名		熊本大学	1名
	岐阜大学	2名		慶應義塾大学	1名
	京都大学	1名		国際医療福祉大学	1名
	京都府立医科大学	1名		昭和大学	2名
	杏林大学	1名		東京科学大学	1名
	慶應義塾大学	28名		広島大学	1名
	神戸大学	1名	藤田医科大学	1名	
	国際医療福祉大学	1名	北海道大学	1名	
	佐賀大学	1名	整形外科	福島県立医科大学	1名
	札幌医科大学	1名		北里大学	1名
	順天堂大学	3名	精神科	東北大学	1名
	昭和大学	3名		日本医科大学	1名
	信州大学	2名	小児科	京都大学	1名
	センメルワイズ大学	1名		京都府立医科大学	2名
	千葉大学	2名		慶應義塾大学	1名
	筑波大学	4名		佐賀大学	1名
	帝京大学	1名		順天堂大学	1名
	東京大学	3名		筑波大学	2名
	東京科学大学	4名		東京大学	1名
	東京医科大学	2名		東京科学大学	1名
	東京慈恵会医科大学	8名		東海大学	1名
	東京女子医科大学	1名		長崎大学	1名
	東邦大学	1名		名古屋大学	1名
	東北大学	1名		日本大学	1名
奈良県立医科大学	2名	浜松医科大学		1名	
日本大学	3名	横浜市立大学		1名	
日本医科大学	4名	琉球大学	1名		
浜松医科大学	1名	横浜市立大学	1名		
弘前大学	1名	産婦人科	鹿児島大学	1名	
福井大学	2名		金沢医科大学	1名	
福岡大学	1名		北里大学	1名	
福島県立医科大学	1名		熊本大学	1名	

科・部	学校・病院名	人数
産婦人科	群馬大学	1名
	千葉大学	2名
	東京医科大学	1名
	東京科学大学	1名
	東邦大学	1名
	富山大学	1名
	長崎大学	1名
	名古屋大学	1名
	福島県立医科大学	1名
	北海道大学	2名
宮崎大学	1名	
眼科	杏林大学	1名
耳鼻咽喉科	慶應義塾大学	4名
麻酔科	東京科学大学	1名
救急科	岩手医科大学	1名
	金沢大学	1名
	岐阜大学	1名
	大阪公立大学	1名
	杏林大学	2名
	熊本大学	2名
	群馬大学	3名
	慶應義塾大学	3名
	神戸大学	1名
	国際医療福祉大学	1名
	札幌医科大学	3名
	滋賀医科大学	1名
	昭和大学	5名
	聖マリアンナ医科大学	2名
	千葉大学	1名
	帝京大学	1名
	東海大学	3名
	東京大学	1名
	東京科学大学	1名
	東京慈恵会医科大学	5名
	東京女子医科大学	2名
	東邦大学	3名
	新潟大学	1名
	日本医科大学	3名
	浜松医科大学	1名
	福島県立医科大学	1名
弘前大学	1名	
北海道大学	1名	
山口大学	1名	
横浜市立大学	9名	

科・部	学校・病院名	人数
救急科	琉球大学	2名

※ 平成28年度から、現役研修医の見学は数値から除外している。

6 講師派遣

(1) 看護職員

氏名	派遣場所	担当科目	日程
澤田 かおり	川崎市ナーシングセンター	川崎市新人看護職員研修 フィジカルアセスメントの基礎	6月6日
高畑 良子	ステーションコンファレンス川崎	第2回パーキンソン病診療 病診連携Webセミナーin Kawasaki	6月7日
臼田 美奈子	児童養護施設 川崎愛児園	福祉施設のための出張講座 こどもに身近な病気・けが・事故	7月14日
須貝 美弥	川崎市看護短期大学	テーマ別看護論 NICUにおける看護の実際	7月21日
吉田 優作	川崎市ナーシングセンター	災害時看護 I 研修会	7月25日
長澤 聖子	川崎市立看護大学	地域包括ケア実践 母と子の地域包括ケアシステム	9月28日
吉川 紀子	にじのそら溝の口保育園	保育園・病児保育施設看護職員研修	9月15日
高畑 良子	日本丸訓練センター	かながわ健康財団 看護職員認知症対応力向上研修	9月29日
鳥海 幸恵	オンライン	日本老年看護学会 生涯学習支援研修	10月9日
高畑 良子	川崎市立川崎病院	川崎市病院協会 病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修	10月17日
塩津 未季	川崎市ナーシングセンター	川崎市看護協会 ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム	10月27日 11月10日
鳥海 幸恵	川崎市立看護大学	地域包括ケア実践 高齢者の地域包括ケアシステム	11月2日
鳥海 幸恵	川崎市ナーシングセンター	川崎市看護協会 ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム	11月10日
戸嶋 佑貴	川崎市立川崎高校	「生活支援技術」における医療的ケア(救急蘇生法)	12月4日
庄司 圭佑	川崎市立川崎高校	「生活支援技術」における医療的ケア(救急蘇生法)	12月4日
西森 春江	川崎市総合福祉センター	川崎市社会福祉協議会 医療研修 ころの不調とつきあう	2月19日

(2) 臨床検査技師

氏名	派遣場所	担当科目	日程
三津田太郎	東海大学伊勢原キャンパス	輸血検査実技講習会	7月23日
腰高豊	杏林大学保健学部	細胞検査士養成課程総合特別講義	10月16日
腰高豊	北里大学医療衛生学部	細胞検査士コース鏡検総合講義	11月14日

VIII 臨 床 研 修 概 要

臨床研修概要

1 経緯

(1) 病院の沿革・特徴

昭和2年、伝染病組合病院が川崎市立病院に改称、昭和11年、大規模改築、昭和20年6月1日に総合病院となり、その後建物、設備、診療科の増設を逐次行い、市民の医療の中枢を担う病院に発展してきました。

昭和40年、救急指定病院となり、昭和42年には研修医制度が発足しました。それ以降、各学会の指定医の研修施設に指定され、昭和63年には、外国人医師等を対象とした臨床修練指定病院となりました。また、平成10年4月から総合診療科を設置したことに伴い、新たに後期臨床研修も実施しています。

なお、平成7年から全面改築を進めてきましたが、平成10年11月病棟・中央診療棟が完成し、そして平成12年4月、新外来棟がオープンしたことにより、当院を取り巻く医療環境は、大幅に改善されたばかりでなく、導入された総合医療情報システムや搬送システムが完全に稼動し、機能面でも一段とアップしました。

(2) 初期臨床研修

当院の臨床研修制度は、昭和42年4月に発足し、既に55年が経過しています。最初の10年間は研修期間3年のレジデント制度として行われ、昭和52年からは2年間の臨床研修制度となりました。当初の12年間は学制と同じく4月に始まり、3月に終わる制度でありましたが、研修医内定者のうち医師国家試験に不合格となるものがあり、厚生省の指導や欠員を配慮して昭和54年からは6月開始・5月修了に改められました。そして、平成5年に至り医師国家試験の期日が3月に変更されたことに伴い、5月開始・4月修了という新たな制度に生まれ変わりました。

昭和50年度までは単一専門科か専門科と関連する他の1から2科を研修するのみでありましたが、昭和51年度からは専門科に重点を置きながらも、広く各科を研修するローテイト方式を採用してきました。これは平成16年度から実施された卒後臨床研修制度を先取りしていたものであったといえます。

平成16年5月からは新たな卒後臨床研修制度義務化に伴って、単独型臨床研修病院として初期研修医各学年10名を受け入れ、さらに川崎市立井田病院に対する協力型病院として井田病院の臨床研修医（当院ローテイトは卒後2年目）を指導しています。

平成22年12月1日に卒後臨床研修評価機構の認定を受けました。以後、平成24年、平成30年、令和4年に更新認定を受けています。

令和5年度に新入職となる臨床研修医の採用にかかる臨床研修マッチング協議会の公表データでは、当院を応募する医学生の人数が全国第1位となりました。新制度実施後、多数の医学生から応募があるのは、当院がこれまで取り組んできた臨床研修制度が高く評価されたものと自負しつつも、さらに医療安全管理・倫理面も含めた教育内容を拡充し、優れた臨床医の育成を図りたいと考えています。

ア 臨床研修医年度別 採用者数

年 度	志 募 者	採 用	修 了	備 考
昭和44	5	3		
45	14	7	3	
46	19	4	2	
47	18	6	8	
48	17	8	4	
49	24	6	3	
50	39	10	7	
51	37	5	5	3年制→2年制度へ移行
52	26	8	5	
53	23	10	11	
54	42	10	11	
55	17	10		
56	12	3	9	
57	9	5	8	
58	4	3	2	
59	11	5	5	
60	11	1	11	
61	9	5	1	
62	6	2		
63	8	2	4	
平成元	12	8	2	
2	9	6	1	
3	9	7	6	
4	13	10	6	
5	12	7	5	
6	10	9	8	
7	11	11	6	
8	21	10	7	
9	13	6	8	
10	12	9	10	
11	16	9	4	
12	16	11	5	
13	14	10	8	
14	11	10	8	
15	8	7	7	
16	84	10	6	
17	126	9	4	
18	83	9	9	
19	103	10	9	
20	83	9	9	
21	62	10	9	
22	67	10	10	
23	79	10	10	
24	96	10	10	
25	77	10	10	
26	51	10	10	
27	73	9	10	
28	88	10	9	
29	74	10	10	
30	74	10	10	
令和元	53	10	10	
2	73	10	10	
3	136	10	10	
4	204	9	10	
5	130	10	10	
計	2354名	438名	375名	

イ 専攻医年度別 採用者数

年 度	応募者数	採 用	備 考
13	13	12	
14	8	8	
15	10	10	
16	13	10	
17	11	11	
18	13	12	
19	27	25	
20	44	36	
21	38	34	
22	32	29	
23	34	27	
24	38	34	
25	31	30	
26	40	40	
27	46	45	
28	38	37	
29	37	37	
30	39	39	
令和元	42	42	
令和2	37	35	
令和3	32	32	
令和4	52	51	
令和5	51	51	

ウ 臨床研修医出身校別採用者数

国・公立大学

私立大学等

(5年4月1日現在)

出身校	年度							計	年度							計
	昭和42~平成30	31	令和2	3	4	5	計		昭和42~平成30	31	令和2	3	4	5	計	
北海道大	5			1		1	7	岩手大	2						2	
旭川医科大	1						1	自治医大	7						7	
札幌医科大	1						1	埼玉医大	3						3	
弘前大	5					1	6	杏林大	7						7	
東北大	4						4	慶應義塾大	106	5	5	2	4	1	123	
秋田大	7						7	順天堂大	3						3	
山形大	2	1			1		4	昭和医大	8	1				1	10	
福島医大	1		1				2	帝京大	2						2	
筑波大	5	1			1		7	東京医科大	8			1			9	
群馬大	4						5	慈恵医科大	28	1	3		1		35	
千葉大	15					1	17	東京女子医大	8		1				10	
東京大	5						6	東邦大	16						16	
東京医科歯科大	5						6	日本医大	4						4	
横浜市立大	3					2	5	日本医大	3						3	
新潟大	4						4	北里大	7					1	8	
富山大	2						2	聖マリアンナ大	15						16	
福井大	3						3	東海大	13			1			13	
山梨大	1						1	金沢医大	2						2	
岐阜大	2						2	愛知医科大	2						2	
松山医科大	4						4	藤田医科大	10						10	
名古屋大	2						2	大阪医科大	2						2	
名古屋大	3						3	関西医科大	3						3	
三重大	3						3	兵庫医科大	1						1	
滋賀医科大	1						1	川崎医科大	2						2	
京都府医大	1						1	久留米医科大	2						2	
大阪大	1						1	産業医科大	5						5	
神戸大	3					1	4	その他(海外等)	2				1		3	
奈良大	1						1								0	
島根大	1						1								0	
岡山大	2						2								0	
山口大	2						2								0	
徳島大	2						2								0	
香川大	1						1								0	
高知大	2						2								0	
九州大	0	1					1								0	
佐賀大	1						1								0	
長崎大	5						5								0	
熊本大	2						2								0	
鹿児島大	1						1								0	
琉球大	2						2								0	
計	115	3	1	4	3	6	132	計	271	7	9	6	7	3	303	

エ 初期臨床研修修了者（令和4年度生）

修了年月日	氏名	出身校
令和6年3月31日	石井 達也	慶應義塾大学
令和6年3月31日	高野 すみれ	東京慈恵会医科大学
令和6年3月31日	坂野 彰哉	神戸大学
令和6年3月31日	佐藤 佑樹	慶應義塾大学
令和6年5月31日	施賀 皓内	台北医学大学
令和6年3月31日	仲尾 捷	慶應義塾大学
令和6年3月31日	長竹 茉奈	筑波大学
令和6年3月31日	林 祐美子	山形大学
令和6年3月31日	三谷 貴大	慶應義塾大学
令和6年3月31日	山内 遥	聖マリアンナ医科大学

<2年以上研修を受けた専攻医>（※ 1年6か月以上2年未満の者を含む。）

- ・安部 恭嗣 ・中間 麻矢子 ・新川 紗由香 ・伊藤 ゆりか ・太田 真右 ・鈴木 美里
- ・阿久津 朱伽 ・可児 圭丞 ・長谷川 岳史 ・高原 美希 ・田中 健太

<1年間研修を受けた専攻医>（※ 6か月以上1年未満及び1年6か月未満の者を含む。）

- ・池田 慶介 ・岩楯 洋祐 ・伊藤 敬 ・三枝 信太郎 ・齋藤 直宏 ・祖田 真奈
- ・高木 大歩 ・眞鍋 佳世 ・三崎 美佳 ・本宮 寛人 ・吉田 昇悟 ・吉田 昌平
- ・神人 悠 ・女屋 悠 ・廣瀬 俊啓 ・田邊 蓉子 ・寺島 理佐 ・宇田川 梨紗
- ・佐藤 光 ・矢島 夢実 ・吉田 有砂 ・田中 祥子 ・木村 泰介 ・三浦 優花
- ・中山 ゆき ・岡本 紗織 ・酒井 浩人 ・山原 えりか ・石原 啓成 ・安達 薫
- ・古川 貴子

オ 在籍する臨床研修医（令和5年4月1日現在）

2年次生（令和4年度生）		1年次生（令和5年度生）	
氏名	出身校	氏名	出身校
石井 達也	慶應義塾大学	石原 倫実	横浜市立大学
高野 すみれ	東京慈恵会医科大学	小田 紘生	慶應義塾大学
坂野 彰哉	神戸大学	片倉 祐希	弘前大学
佐藤 佑樹	慶應義塾大学	高橋 尚之	昭和大学
施賀 皓内	台北医学大学	田代 那央	横浜市立大学
仲尾 捷	慶應義塾大学	西内 茉澄	千葉大学
長竹 茉奈	筑波大学	平松 知紗	北里大学
林 祐美子	山形大学	藤森 真里	東京医科歯科大学
三谷 貴大	慶應義塾大学	室原 健人	北海道大学
山内 遥	聖マリアンナ医科大学		

カ 在籍する専攻医(令和5年6月1日現在)

4年次生以上			3年次生		
志望科	氏名	出身校	志望科	氏名	出身校
内科	池田 慶介	北里大学	内科	齋藤 直宏	慶應義塾大学
内科	岩楯 洋祐	北里大学	内科	佐藤 翠	北里大学
内科	林 浩一	熊本大学	内科	祖田 真奈	島根大学
内科	伊藤 敬	東邦大学	内科	高木 大歩	杏林大学
内科	三枝 信太郎	北里大学	内科	眞鍋 佳世	慶應義塾大学
内科	桃原 理子	東邦大学	内科	三崎 美佳	慶應義塾大学
外科	中間 麻矢子	東京女子医科大学	内科	本宮 寛人	聖マリアンナ医科大学
外科	女屋 悠	群馬大学	内科	吉田 昇悟	慶應義塾大学
整形外科	石原 啓成	慶應義塾大学	内科	吉田 昌平	センメルワイス大学
整形外科	廣瀬 俊啓	日本医科大学	外科	神人 悠	帝京大学
整形外科	伊藤 ゆりか	東邦大学	整形外科	田邊 蓉子	昭和大学
形成外科	寺島 理佐	慶應義塾大学	小児科	三浦 優花	東京慈恵会医科大学
精神科	太田 真右	慶應義塾大学	泌尿器科	豊原 雅人	群馬大学
精神科	鈴木 美里	秋田大学	麻酔科	水岡 史明	東京医科歯科大学
精神科	宇田川 梨紗	鹿児島大学	救急科	浦上 尚也	千葉大学
小児科	佐藤 光	島根大学	救急科	根本 悠太	信州大学
小児科	阿久津 朱伽	東京女子医科大学			
新生児内科	可児 圭丞	順天堂大学			
皮膚科	新川 紗由香	千葉大学			
産婦人科	渦川 真優子	昭和大学			
眼科	長谷川 岳史	京都府立医科大学			
眼科	矢島 夢実	慶應義塾大学			
耳鼻咽喉科	吉田 有砂	東邦大学			
耳鼻咽喉科	高原 美希	慶應義塾大学			
耳鼻咽喉科	田中 祥子	慶應義塾大学			
リハビリテーション科	木村 泰介	慶應義塾大学			
リハビリテーション科	中山 ゆき	福島県立医科大学			
放射線診断科	岡本 紗織	信州大学			
放射線診断科	酒井 浩人	福島県立医科大学			
麻酔科	安達 薫	島根大学			
麻酔科	古川 貴子	慶應義塾大学			
麻酔科	山原 えりか	北海道大学			
歯科口腔外科	田中 健太	東北大学			

2 初期臨床研修医プログラム

(1) 名 称

川崎市立川崎病院初期臨床研修プログラム

(2) 目的と特徴

当院の研修医制度は、昭和42年4月に発足し、その後教育指導部を設置して既に40年以上が経ちますが、この間多数の研修修了者を送り出してきました。その後、幾度かの変遷を経て、現在では、毎年4月1日に研修開始して、2年後の3月31日に修了する方式を採っています。

ローテイトに当たっては、研修医と十分話し合いを持ち、それぞれに最も適した個別カリキュラムを組んで、限られた期間に充実した研修成果が上がるよう努めています。

また、各科の基礎的診断治療のための技能の習得のみならず、“病気を診るのではなく、悩める病人を診る”という、診療態度の修得やプライマリ・ケアを重視した研修を行っています。

医学の進歩に伴い、医療の専門分化・高度化により各臓器疾患の専門医は増加し、これまで治療困難とされた疾患が克服できるようになりました。それに反して患者を全人的に診療できる医師（General Physician）は少なく、“病気のみを診るのではなく悩める病人を診る”ことのできるGeneral Physicianの養成が社会的に求められています。また、本当の意味での専門医はGeneral Physicianとしての素養を身につけた上で、自分の専門分野を追及していくべきと考えます。

そこで当院では、“臓器別専門医である前に、患者全体を診て適切な診療を行う”を基本方針の基に、臨床医としての基礎的臨床能力を養成することを主たる目標にしました。

(3) 指導者と研修施設

ア 指導者と研修プログラム責任者

研修管理委員会委員長 小宮 浩一郎

イ 研修施設

診療各科及び検査科の施設、研究室、会議室

ウ 指導医リスト [医師免許取得後7年以上] (令和5年6月1日現在)

内科	野崎 博之	高木 英恵	安部 恭嗣	安藤 孝
	井上 健太郎	深江 智明	北薊 久雄	布施 彰久
	花田 亮太	相馬 裕樹	佐山 宏一	大森 奈緒
	大塚 健悟	杉原 快	李 昊	末吉 浩一郎
	伯野 大彦	李 慧崇	明神 聡介	西澤 健也
	伊藤 桂	玉井 博修	有泉 健	鈴木 健
	町田 雄二郎	下寄 啓太郎	定平 健	岡山 幹夫
	大嶋 洋佑	渡辺 雄祐	川口 隆久	坂本 光男
	細田 智弘	吉川 賢忠	田口 博章	梶尾 暢彦
	津村 和大			
	精神科	齋藤 寿昭	三浦 孝政	倉持 信

小児科	土橋 隆俊 松尾 基視 案納 あつこ	有安 大典 柴田 浩憲	亀井 聡信 外山 陽子	檜林 敦 吉田 祐
新生児内科	森 和広	古川 律子	長田 朝美	上田 明歩
外科	市東 昌也 菊池 直哉	小倉 正治 三原 規奨	菊池 弘人 萬谷 京子	雨宮 隆介 和多田 晋
呼吸器外科	澤藤 誠	岩丸 有史	奥井 将之	
脳神経外科	片山 真	井上 賢	高原 健人	小野塚 聡
整形外科	上田 誠司 寺坂 幸倫 西脇 正夫	小宮 浩一郎 瀬戸 貴之	山口 健治 伊藤 修平	西村 空也 養田 裕平
形成外科	角 美帆			
心臓血管外科	灰田 周史	船石 耕士		
皮膚科	西本 周平	田原 海		
泌尿器科	原 智 大村 美波	勝井 政博	茂田 啓介	梅田 浩太
産婦人科	中田 さくら 石垣 順子	金 善恵 大橋 千恵	大石 真希 染谷 健一	椎名 美季
眼科	三田村 浩人	小澤 紘子	藤岡 俊平	安里 輝
耳鼻咽喉科	重富 征爾	猪狩 雄一		
放射線診断科	倉田 忠宜	長谷川 市郎	緒方 雄史	東田 直樹
放射線治療科	栗林 徹	關 智史		
麻酔科	森田 慶久 出野 智史 鶴澤 侑子	菅 規久子 高橋 京助 岡部 久美子	梶谷 美砂 平畑 枝里子 瀬上 和貴	奥田 淳 石渡 博昭
救急科	田熊 清継 土屋 光正 上野 浩一	齋藤 豊 鳥海 聡	金尾 邦生 金子 翔太郎	三吉 貴大 藤田 野々香
リハビリテーション科	阿部 玲音			
歯科口腔外科	鬼澤 勝弘	安居 孝純		
病理診断科	折笠 英紀	杉浦 仁		

エ 専門医（認定医）教育病院等学会の指定状況

日本内科学会認定医教育病院	日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修支援施設	日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設	日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所
日本整形外科学会専門医制度研修施設	日本認知症学会認定教育施設

日本形成外科学会認定教育関連施設	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本眼科学会専門医制度研修施設	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院	日本病理学会研修認定施設 B
日本リハビリテーション医学会認定研修施設	日本消化器外科学会専門医修練施設
日本リウマチ学会認定教育施設	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本アレルギー学会認定アレルギー専門医教育研修施設	日本神経学会専門医制度教育施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設	日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設
日本腎臓学会認定研修施設	日本血液学会認定研修施設
日本核医学会専門医教育病院	日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設	日本 IVR 学会専門医修練施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定関連施設	日本集中治療医学会専門医研修施設
日本呼吸器学会認定施設	日本脳卒中学会専門医認定研修教育病院
日本感染症学会認定研修施設	日本臨床細胞学会認定施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設	日本口腔外科学会関連研修施設
日本呼吸器外科専門医合同委員会認定修練基幹施設	日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
日本胆道学会認定指導施設	日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本手外科学会認定研修施設	日本頭頸部外科学会準認定施設
日本脈管学会認定研修指定施設	日本食道学会全国登録認定施設
日本消化管学会胃腸科指導施設	日本周産期・新生児医学会専門医制度暫定認定施設
日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設	日本肝臓学会認定施設
日本肝胆膵外科学会高度技能専門医制度認定修練施設	日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設
日本糖尿病学会教育関連施設	神奈川県医師会母体保護法指定医師指定研修機関
浅大腿動脈ステントグラフト実施施設	日本透析医学会教育関連施設
日本高血圧学会認定研修施設	日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター
胸部外科教育施設協議会修練施設	腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設
日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医認定研修施設	日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設	

オ 指導体制

各科とも原則としてマンツーマン方式を取れ入れています。

(4) プログラム委員会

本院には、研修管理委員会が設置されており、その委員がプログラム委員を兼務します。

(5) プログラム管理体制

ア 研修管理委員会の組織・機能

(ア) 委員長：小宮 浩一郎 研修管理委員会委員長

(イ) 構成：委員は各研修カリキュラムの責任者、院長、事務局長、副院長、庶務課長、研修協力施設の研修実施責任者（指導医等）、外部委員（医師等）

(ウ) 業 務

a 研修プログラムの全体的な調整・管理

（研修プログラム作成方針の決定や、各研修カリキュラム間の相互調整など）

b 研修医の全体的な管理

（研修医の募集、他施設への出向、研修医の処遇、研修医の健康管理）

c 研修医の研修状況の評価

（研修目標の達成状況の評価、臨床研修修了の評価）

d 採用時における研修希望者の評価

e 指導医の評価と記録

f 研修後の進路について、相談等の支援を行う

g 院内カンファレンス、研修資料と教育機材の管理、指導医研修

イ 研修医の勤務規定、顕彰・処罰規定及び採用方法

研修医の勤務規定、顕彰・処罰規定及び採用方法は別途定める要綱によります。研修医は、毎年公募により採用されます。

ウ 研修プログラムの自己評価と改善体制

研修管理委員会では、研修医の研修成果や研修医・指導医の意見を踏まえ、常に研修プログラム自体の評価を行い、修正可能な点は速やかに修正します。また、大きなシステム上の問題は、関係各所と協議の上、適宜改善を行います。

エ 研修医からのフィードバック

研修医は、研修実行委員と定期的に面接を行い、研修プログラムや指導医に対する意見を述べることができます。臨床研修委員会は、できるだけ研修医の要望を実現できるように配慮します。

オ 研修の継続が困難な研修医に対する処置

身体的・社会的・経済的理由などにより、研修継続が困難な状態に陥った場合は、臨床研修委員会及び研修責任者は、研修医個人の処遇を勘案し、適切な対応を行うものとします。

(6) 卒後臨床研修・ローテイトについて

ア 期間割り研修医予定配置

1年次の最初の4週は、全員が内科で研修を行います。厚生労働省の定める内科24週、救急科12週、地域医療4週、外科4週、小児科4週、産婦人科4週、精神科4週を必修科目として計56週研修します。選択は15科（緩和ケア科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、口腔外科、検査科（病理））の中から選択し、48週の研修を行います。

選択科目の研修期間は、プログラムの特性を配慮し、最低4週とします。

選択科目の研修に当たっては、研修医が各研修カリキュラムを選択し、積極的に研修に取り組み、充実した研修ができるように留意します。

(7) 研修医定員及び処遇

研 修 医 定 員	: 1年次10名、2年次10名
募 集 及 び 採 用 方 法	: 公募、小論文、個別面接にて選考、マッチングに参加
資 格	: 令和5年度に日本で有効な医師免許を取得見込みの者
処 遇	: 川崎市会計年度任用職員 地方公務員法（以下「地公法」という。）第30条及び第32条から第35条を、遵守する義務を負う。
待 遇	: 給与月額 309,501円 健康保険・厚生年金・雇用保険・労働災害補償あり レジデントハウス（単身者用）あり 病院個室なし、個人の机及びロッカー有り 定期健康診断年2回 医師賠償責任保険は病院として加入 学会及び研究会への参加は研修に支障のない範囲で可。ただし、公費負担なし。
勤 務 時 間	: 1週5日（月～金曜日） 月～金曜日：8時30分～17時まで 研修以外の診療活動は認めない（地公法第38条の改正による） 当直は配属科により変わるが、内科の場合、平日当直2日、休日当直1日が目安である。
年 次 有 給 暇 等	: 1年目10日、2年目11日付与 夏期休暇5日（6月1日～10月31日までの間に取得）

(8) 研修修了認定基準

臨床研修医に関する要綱中、第10条の修了証書の授与に際しては、次の基準によるものとします。

ア 各研修医は、厚生労働省の指定した初期臨床研修到達目標の自己評価表に基づき、自己採点を行い、研修責任者に提出する。

イ 研修責任者は、研修管理委員会を開催し、ローテイトした科の指導責任者の採点によるレジデント評価表と研修医が採点した自己評価表を併せて審査し、その結果を院長に報告する。

ウ 院長は、報告に基づき研修が修了したと認定された研修医に対して、修了証書を授与する。

IX 業績目録

科 別 業

科目	年度	科 別												
		内科・総合内科	精神科	小児科	新生児内科	外科	呼吸器外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産科・婦人科
学位取得	1								1				1	
	2													
	3													
	4			2										
	5													
賞	1	1												
	2	1	1						1					
	3	2		1										1
	4	2		1										
	5	2		1										1
研究助成 共同研究	1							1						
	2							1						
	3		1	3										
	4													
	5													
書籍	1	3		3										
	2		1	3		1								
	3	1	1	4					2			1	4	1
	4		1											
	5								2					
論文	1	14		2		3	7	1	17				8	9
	2	21	1	1		2	1	12	16	1			7	3
	3	5	2	2		1			11		3			2
	4	5	1	2		3	1		7			1		2
	5	23	1	3		3	1		7		1	2	4	2
学会 研究会	1	32	4	8	4		3	3	18			3	13	18
	2	21	1	6		4	2	2	13			4	3	9
	3	16	5	8		5	4		13			7	1	9
	4	22	1	15		9	3		15			7	1	6
	5	26		6		9	2	5	11			4	6	6
その他	1	1	5						3				3	
	2	21		3					2					
	3	5	1	5		1		1	2				1	
	4	18	1	3					4				2	
	5	17		5	1	2		6	8			1	1	

※ 「書籍」は「著書」と「書籍の章」の合算。「その他」には「講演会等」を含む

績 統 計

眼 科	耳 鼻 咽 喉 科	放 射 線 治 療 科	放 射 線 診 断 科	麻 酔 科	救 急 科	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	歯 科 口 腔 外 科	検 査 科	薬 剤 部	看 護 部	医 療 安 全 管 理 室	教 育 指 導 部	医 療 情 報 シ ス テ ム 管 理 室	食 養 科	合 計
				1 1						1					2 1 1 3 0
	1							1		1 3					3 3 7 4 4
1	1						1 1 1 1	1							3 3 7 1 0
				4 2	1 1 3 1	1				1 1 1		1			4 6 21 4 7
2 3 1	11 10 3		1 2 2	6 7 7 2 2	19 13 12 5 4	1 1	4 1 1	19 2				4			101 99 71 36 60
4 3	22 8 7 5 3	1	7 3 3 2	7 1 5 2 5	20 11 8 7 7	2 6 1 11	1 1 2 5	1 10 14 2	2 1	13			5	1	179 89 116 116 113
1 2		1	9 11 3 1 1	1 1 1	2 1 2	8 6 8 6 5	2	8 10 12 8	8	7				3 8 8 9 1	46 62 67 56 48

1 当院における学位取得者

該当者なし

2 賞

(1) 内科

鈴木健. 日本内科学会関東地方会. 指導医賞. 2023年5月20日. 第686回関東地方会
加藤亜美. 日本内科学会関東地方会. 奨励賞. 2023年5月20日. 第686回関東地方会

(2) 小児科

吉田祐. 第59回日本小児循環器学会学術集会. YIA 若手の卓越した論文. 2023年7月8日

(3) 産科

中田さくら. 令和5年度産科医療功労者厚生労働大臣表彰. 地域の産科医療に貢献したため.
2023年9月8日

3 研究助成及び共同研究

該当者なし

4 書籍

該当者なし

5 書籍の章

(1) 麻酔科

奥田淳. 2. 吸入麻酔薬. "OPE NURSING (オペナーシング) 2023年6月号. 【特集】「今さら聞けない
キホンの知識から「実は気になる」イレギュラーケースまで麻酔科医の先生にこっそり聞きたい手
術室の薬". 山田高成. 大阪市. メディカ出版. 2023. 547-551

出野智史. 3. 鎮痛薬. "OPE NURSING (オペナーシング) 2023年6月号. 【特集】「今さら聞けない」
キホンの知識から「実は気になる」イレギュラーケースまで麻酔科医の先生にこっそり聞きたい
手術室の薬". 山田高成. 大阪市. メディカ出版. 2023. 555-563

(2) 整形外科

西脇正夫. 髓内釘. 新版. 橈骨遠位端骨折進歩と治療法の選択 The Cutting Edge. 1. 森谷浩治, 依田拓
也. 東京. 金原出版. 2023. 219-226

西脇正夫. 三角線維複合体(TFCC)損傷整形外科保存治療ハンドブック. 1 東京. 中外医学者 2024. 78-78

(3) 救急科

田熊清継. 治療法のアップデートのために専門家による私の治療 熱傷. 日本医事新報. 5177.
梅澤俊彦. 東京都. 日本医事新報社. 2023年. 44-46

(4) 教育指導部

津村和大. 糖尿病網膜症がわかるハイパースライド. 激アツ! 糖尿病教室ハイパースライド 1版.
細井雅之. 大阪. メディカ出版. 2023年. 76-83

(5) 看護部

鳥海幸恵. 老年看護の理念と目標老年看護の倫理. 看護学テキスト老年看護学概論改訂第4版.
正木治恵, 真田弘美. 東京. 南江堂. 2023年. 95-98

6 論文

(1) 内科

Matsumoto Y, Arakawa S, Sadahira K, Sato T, Yamazaki K, Nishimoto S. Skin Manifestations of Micafungin Breakthrough Disseminated Trichosporonosis in Acute Megakaryoblastic Leukemia. *Med Mycol J*. 2023. 65(1). 17-21

Shiraishi Y, Ikemura N, Urashima M, Kohno T, Nakano S, Tanaka T, Nagatomo Y, Ikoma T, Ono T, Numasawa Y, Sakamoto M, Nishikawa K, Takei M, Hakuno D, Nakamaru R, Ueda I, Kohsaka S. Rationale and protocol of the LAQUA-HF trial: a factorial randomised controlled trial evaluating the effects of neurohormonal and diuretic agents on health-status reported outcomes. *inheart. failure. patients. BMJOpen*. 2024. Feb. 14;14(2). e076519. doi:10.1136/bmjopen-2023-076519.

Watase M, Miyata J, Terai H, Sunata K, Matsuyama E, Asakura T, Namkoong H, Masaki K, Yagi K, Ohgino K, Chubachi S, Kawada I, Mochimaru T, Satomi R, Oyamada Y, Kobayashi K, Hirano T, Inoue T, Lee H, Sugihara K, Omori N, Sayama K, Mashimo S, Makino Y, Kaido T, Ishii M, Fukunaga K. Cough and sputum in long COVID are associated with severe acute COVID-19: Japanese cohort study *Respir* 2023. Nov 14;24(1):283. doi. 10.1186/s12931-023-02591-3.

Shimozaki K, Nakayama I, Takahari D, Nagashima K, Yoshino K, Fukuda K, Fukuoka S, Osumi H, Ogura M, Wakatsuki T, Ooki A, Shinozaki E, Chin K, Yamaguchi K. Efficacy and Safety of Trastuzumab Deruxtecan and Nivolumab as Third- or Later-Line Treatment for HER2-Positive Advanced Gastric Cancer: A Single-Institution Retrospective Study *J GastricCancer*. 2023. Oct;23(4). 609-621

Terai H, Ishii M, Takemura R, Namkoong H, Shimamoto K, Masaki K, Tanosaki T, Chubachi S, Matsuyama E, Hayashi R, Shimada T, Shigematsu L, Ito F, Kaji M, Takaoka H, Kurihara M, Nakagawara K, Tomiyasu S, Sasahara K, Saito A, Otake S, Azekawa S, Okada M, Fukushima T, Morita A, Tanaka H, Sunata K, Asaoka M, Nishie M, Shinozaki T, Ebisudani T, Akiyama Y, Mitsuishi A, Nakayama S, Ogawa T, Sakurai K, Irie M, Yagi K, Ohgino K, Miyata J, Kabata H, Ikemura S, Kamata H, Yasuda H, Kawada I, Kimura R, Kondo M, Iwasaki T, Ishida N, Hiruma G, Miyazaki N, Ishibashi Y, Harada S, Fujita T, Ito D, Bun S, Tabuchi H, Kanzaki S, Shimizu E, Fukuda K, Yamagami J, Kobayashi K, Hirano T, Inoue T, Haraguchi M, Kagyo J, Shiomi T, Lee H, Sugihara K, Omori N, Sayama K, Otsuka K, Miyao N, Odani T, Watase M, Mochimaru T, Satomi R, Oyamada Y, Masuzawa K, Asakura T, Nakayama S, Suzuki Y, Baba R, Okamori S, Arai D, Nakachi I, Kuwahara N, Fujiwara A, Oakada T, Ishiguro T, Isosno T, Makino Y, Mashimo S, Kaido T, Minematsu N, Ueda S, Minami K, Hagiwara R, Manabe T, Fukui T, et al.

Comprehensive analysis of long COVID in a Japanese nationwide prospective cohort study *Respir Investig*. 2023 Nov;61(6). 802-814

Yamazaki H, Uehara M, Yoshikawa N, Kuribara-Souta A, Yamamoto M, Hirakawa Y, Kabe Y, Suematsu M, Tanaka H. The crucial role of muscle glucocorticoid signaling in accelerating obesity and glucose intolerance via hyperinsulinemia *JCI Insight*. 2023 Apr 24;8(8)e162382. doi: 10.1172/jci.insight.162382.

Hosoda Tomohiro(Department of Infectious Disease, Kawasaki Municipal Kawasaki Hospital), Soma Hiroki 新型コロナウイルス感染症に対して抗凝固療法を行った高齢患者における特発性後腹膜血種・腹直筋血腫 単施設ケースシリーズ(Spontaneous Retroperitoneal Hematoma and Rectus Sheath Hematoma in Older COVID-19 Patients Under Anticoagulation Therapy: A Single-Center Case Series)(英語)Journal of Hospital General Medicine(2436-018X)5 巻 3 号 Page62-66(2023. 05)

Hosoda Tomohiro(Department of Infectious Disease, Kawasaki Municipal Kawasaki Hospital), Emoto Katsura. 糖尿病性筋梗塞(Diabetic muscle infarction)(英語). Journal of Hospital General Medicine(2436-018X)5 巻 2 号 Page41-42(2023. 03)

細田 智弘(川崎市立川崎病院 感染症内科). 【抗菌薬の使い方 より狭域・より短期の治療で耐性菌を抑えつつ治癒を目指す】特殊な状況における抗菌薬の適正使用の進め方 COVID-19 患者に対する抗菌薬適正使用.Medical Practice(0910-1551)40 巻 4 号 Page623-629(2023. 04)

安藤 孝(川崎市立川崎病院 内科), 高木 英恵, 野崎 博之. 当院における選定療養費の変更が入院までの経過に及ぼした影響. 日本内科学会雑誌(0021-5384)113 巻臨増 Page195(2024. 02)

齋藤 直宏(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 玉井 博修, 下寄 啓太郎, 花田 亮太, 町田 雄二郎, 井上 健太郎, 有泉 健, 高木 英恵, 大嶋 洋佑, 安藤 孝. 切除不能肝細胞癌に対する複合免疫療法でサイトカイン放出症候群(CRS)を来した 1 例. 日本内科学会関東地方会 691 回 Page42(2023. 11)

伊藤 敬(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 川口 隆久, 三崎 美佳, 橋口 明典, 尾田 高志, 安藤 孝. ステロイド治療不応 IgA 優位沈着性糸球体腎炎に対し感染コントロールで透析離脱できた一例. 日本腎臓学会誌(0385-2385)65 巻 6-E Page624(2023. 09)

三崎 美佳(川崎市立川崎病院 総合内科), 川口 隆久, 伊藤 敬, 小林 絵美, 倉田 忠宜, 橋口 明典, 安藤 孝. 多発性嚢胞腎に合併した分節性硬化病変を伴う膜性腎症の 1 例. 日本腎臓学会誌(0385-2385)65 巻 6-E Page576(2023. 09)

祖田 真奈(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 相馬 裕樹, 佐藤 佑樹, 花田 亮太, 岡山 幹夫, 定平 健, 岡本 真一郎, 折笠 英紀, 高木 英恵, 安藤 孝. 腓頭部に形質細胞腫を形成し破裂を疑われた多発性骨髄腫の 1 例. 日本内科学会関東地方会 690 回 Page40(2023. 10)

熊谷 聡佑(川崎市立川崎病院 内科), 川口 隆久, 有馬 功一郎, 小林 絵美, 深江 智明, 伯野 大彦, 高木 英恵, 安藤 孝. 菌血症を背景に QT 延長により Torsades de Pointes(TdP)を来したが救命した透析患者の一例. 日本透析医学会雑誌(1340-3451)56 巻 Suppl. 1 Page588(2023. 05)

川口 隆久(川崎市立川崎病院 内科), 熊谷 聡佑, 有馬 功一郎, 安藤 孝. 不明熱の原因として透析アミロイドーシスを考えリクセルが有効であった症例. 日本透析医学会雑誌(1340-3451)56 巻 Suppl. 1 Page501(2023. 05)

古田島 太希(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 大嶋 洋佑, 川口 隆久, 小林 淳二, 小倉 正恒, 前澤 善朗, 多田 隼人, 玉井 博修, 安藤 孝, 野崎 博之. LPL ヘテロ欠損症および糖尿病悪化を背景とした高 TG 血症による急性膵炎に DKA を合併した 1 例 日本内科学会関東地方会 688 回 Page34(2023. 07)

熊谷 聡佑(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 川口 隆久, 有馬 功一郎, 橋口 明典, 高木 英恵, 野崎 博之, 安藤 孝. 短腸症候群による二次性オキサローシスが腎機能障害の原因と考えられた 1 例. 日本内科学会関東地方会 686 回 Page48(2023. 05)

加藤 亜美(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 鈴木 健, 花田 亮太, 山根 剛, 井上 健太郎, 有泉 健, 高木 英恵, 折笠 英紀, 玉井 博修, 安藤 孝. 高齢HER2陽性大腸癌に抗HER2療法が有効性と忍容性を認めた1例. 日本内科学会関東地方会 686回 Page36(2023.05)

Fujita S, Kasahara H, Kato J, Koda Y, Shiroshita K, Yamaguchi K, Okayama M, Abe R, Kikuchi T, Shimizu T, Mori T, Kataoka K, Okamoto S. The Impact of Pretransplant Use of Tyrosine Kinase Inhibitors on Allogeneic Stem Cell Transplantation in Patients with Chronic Myeloid Leukemia - A Single-institution Retrospective Study Intern Med. 2024 63(11)1549-1562

Shiroshita K, Okayama M, Oshima Y, Okamoto S, Sadahira K. Dasatinib-Triggered Severe Hypocalcemia in a Patient with Chronic Kidney Disease and Osteoporosis. Cureus. 2023 15(11) e48555

Okayama M, Fujimori K, Sato M, Samata K, Kurita K, Sugiyama H, Suto Y, Iwasaki G, Yamada T, Kiuchi F, Ichikawa D, Matsushita M, Hirao M, Kunieda H, Yamazaki K, Hattori Y. GTN057, a komaroviquinone derivative, induced myeloma cells' death in vivo and inhibited c-MET tyrosine kinase Cance Med. 2023 12(8) 9749-9759

林浩一, 井上健太郎, 花田亮太, 鈴木健, 山根剛, 有泉健, 高木英恵, 玉井博修, 相浦浩一. 境界明瞭な血管透見不良域を伴う急性食道粘膜病変の1例. Progress of Digestive Endoscopy 2023. 102 43-45

(2) 精神科

Funayama M (first author), Kuramochi S, Kudo S. Neurosyphilis Initially Misdiagnosed as Behavioral Variant Frontotemporal Dementia: Life-Changing Differential Diagnosis J Alzheimers Dis Rep. 2023 Sep 26 7(1).1077-1083

(3) 小児科

可児圭丞, 山田剛, 檜林敦, 阿久津朱伽, 古澤恭平, 案納あつこ, 吉田祐, 外山陽子, 松尾基視, 柴田浩憲, 有安大典, 新川紗由香, 金子寛, 中南秀将, 土橋隆俊. Panton-Valentine leukocidin 産生

methicillin-resistant Staphylococcus aureus ならびに borderline oxacillin-resistant Staphylococcus aureus による皮下深在性細菌感染症の2例. 小児科臨床. 2023年 76 405-411

吉田 祐. 肺動脈性肺高血圧症における新たな分子メカニズムの解明. 循環器内科. 2023年 94 84-89

Yu Yoshida. A genetic and developmental biological approach for a family with complex congenital heart diseases-evidence of digenic inheritance. Front. Cardiovasc. Med. 2023年 10 eCollection

(4) 外科

Watada Susumu (Department of Surgery, Kawasaki Municipal Hospital), Obara Hideaki, Okui Jun, Hosokawa Kyosuke, Matsubara Kentaro, Harada Hirohisa, Fujimura Naoki, Fujii Taku, Shimogawara Tatsuya, Kitagawa Yuko Annals of Gastroenterological Surgery. 2023. 1. 175-181

Shintani T, Obara H, Matsubara K, Hayashi M, Kita H, Ono S, Watada S, Kikuchi N, Sekimoto Y, Torizaki Y, Asami A, Fujii T, Hayashi K, Harada H, Fujimura N, Hosokawa K, Nakatani E, Kitagawa Y. Impact of wound management strategies after revascularization for chronic limb-threatening ischemia. J Vasc Surg. 2024 3. 632-641

Sekimoto Y, Fujimura N, Matsubara K, Uchida N, Asami A, Harada H, Shintani T, Watada S, Ono S, Fujii T, Shimogawara T, Hayashi K, Hayashi M, Obara H, Kitagawa Y. Long-term Outcomes of the Endurant and Excluder Stent Grafts for Endovascular Aneurysm Repair in a Japanese Cohort. J Endovasc Ther. 2023. 4 571-579

(5) 呼吸器外科

Suzuki S, Asakura K, Okui M, Izawa N, Sawafuji M, Sakamaki H, Shigenobu T, Tajima A, Oka N, Masai K, Kaseda K, Hishida T, Yasuda H, Fukunaga K, Asamura H. Prognostic factors affecting survival in patients with non-small cell lung cancer treated with salvage surgery after drug therapy: a multi-institutional retrospective study. *World J Surg Oncol*. 2023 21 290

(6) 整形外科

Okubo T, Nagoshi N, Tsuji O, Nishimura S, Suzuki S, Nori S, Yagi M, Matsumoto M, Nakamura M, Watanabe K. Spinous Process-Splitting Laminectomy Approach for Tumor Excision at Conus Medullaris or Cauda Equina Level Results in Satisfactory Clinical Outcomes Without Affecting Global Spinal Sagittal Alignment. *Global Spine Journal*. 2023 13(7) 1745-1753

Mito K, Lachnish J, Le W, Chan C, Chang YL, Yao J. "Scaffold-free bone marrow-derived mesenchymal stem cell sheets enhance bone formation in a weight-bearing rat critical bone defect model." *Tissue Eng Part A*. 2024 30(3-4) 107-114

西脇 正夫, 石原 啓成, 石倉 佳代子, 歌島 淳, 寺坂 幸倫, 堀内 行雄. 橈骨遠位端骨折の掌側月状骨窩骨片に対する掌側橈尺靭帯縫合法. *日本手外科学会雑誌*. 2023 40(2) 19-23

田邊蓉子, 小宮浩一郎, 上田誠司, 西脇正夫, 山口健治, 西村空也, 寺坂幸倫, 瀬戸貴之, 伊藤修平, 養田裕平, 石原啓成, 廣瀬俊啓, 伊藤ゆりか. 人工膝関節全置換術後4年で発症した遅発性反復性関節血症に対し, *Interventional Radiology* が奏功した1例. *神奈川整形災害外科研究会雑誌* 2023 36(4) 81-84

西脇正夫. 手指の骨折. *整形外科看護*. 2024 376 103-109

Kanauchi Y, Murase T, Nishiwaki M, Odagiri M, Wanezaki Y, Ishikawa H. Study of Reliability and Validity of the Load Cell-Type Hand Dynamometer Compared to the Jamar Dynamometer and the Number of Reliable Grip Strength Measurements. *J Hand Surg Asian Pac Vol* 2023 28 562-572

金内ゆみ子, 村瀬剛, 西脇正夫, 小田桐正博, 阿久津祐子, 志村治彦, 飯塚照史, 茶木正. 握力測定の現状と課題. *日手会誌*. 2024 40 444-449

(7) 心臓血管外科

Mori A, Kuribayashi T, Haida H, Funaiishi K, Kasahara H, Harada Y, Yoshimoto T. "Pacemaker Relocation for Radiation Against Overlapping Lung Cancer". *Cureus*. 2023. 15. e49921

(8) 皮膚科

Matsumoto Y, Arakawa S, Sadahira K, Sato T, Yamazaki K, Nishimoto S. Skin Manifestations of Micafungin Breakthrough Disseminated Trichosporonosis in Acute Megakaryoblastic Leukemia: A Case Report (タイトル和訳中) (英語). *Medical Mycology Journal*. 2024. 65 17-21

Arakawa S, Uchikawa R, Miyagawa A, Kaneko H, Nakaminami H, Nishimoto S. The first case of necrotizing fasciitis caused by Panton-Valentine leukocidin-positive methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* USA300 clone in Japan. *The Journal of Dermatology*. 2023 50 e131-e132

(9) 泌尿器科

Omura M, Kosaka T, Kobayashi H, Shigeta K, Matsumoto K, Hara S, Kikuchi E, Mikami S, Saya H, Sato Y, Oya M. Vasohibin-1 Expression Can Predict Pathological Complete Remission of Advanced Bladder Cancer with Neoadjuvant Chemotherapy. *Ann Surg Oncol*. 2024 31(5) 2951-2958

Saito T, Kanao K, Matsumoto K, Fukumoto K, Igarashi D, Takahashi T, Kaneko G, Shirotake S, Nishimoto K, Mizuno R, Ishida M, Hara S, Oya M, Oyama M. New risk stratification for adjuvant nivolumab for high-risk muscle-invasive urothelial carcinoma. *BJUI Compass*. 2023 27;5(2) 281-288

Shigeta K, Matsumoto K, Kitaoka S, Omura M, Umeda K, Arita Y, Mikami S, Fukumoto K, Yasumizu Y, Tanaka N, Takeda T, Morita S, Kosaka T, Mizuno R, Hara S, Oya M. Profiling Fibroblast

Growth Factor Receptor 3 Expression Based on the Immune Microenvironment in Upper Tract Urothelial Carcinoma. *Eur Urol Oncol* 2024

Saito T, Matsumoto K, Tanaka N, Fukumoto K, Yasumizu Y, Takeda T, Morita S, Kosaka T, Mizuno R, Asanuma H, Hara S, Oya M. Prognostic impact of tumor ureteral invasion on recurrence after radical cystectomy. *Int Urol Nephrol* 2024 56(1) 129-135

(10) 産科

蒔美彩, 大石真希, 渦川真優子, 大橋千絵, 石垣順子, 金善恵, 染谷健一, 中田さくら. 妊娠悪阻に伴う低カリウム血症と肝障害を認めた1例. *神奈川産科婦人科学会誌*. 2023 60 49-52

槌野由香里, 大石真希, 蒔美彩, 大橋千絵, 石垣順子, 大谷利光, 金善恵, 染谷健一, 中田さくら. 重症妊娠悪阻を契機に発見され肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症を合併した顆粒膜細胞腫の1例. *神奈川産科婦人科学会誌*. 2023 59 161-165

(11) 放射線診断科

藤井茜, 佐藤宏朗, 宮寄治. 画像診断 今月の症例 視蓋神経膠腫 (tectal glioma). *小児科臨床*. 2023 76 197-199

Koji Togawa, Seishi Nakatsuka, Jitsuro Tsukada, Nobutake Ito, Yousuke Yamamoto, Togo Kogo, Hiroki Yoshikawa, Manabu Misu, Masashi Tamura, Shigeyoshi Soga, Masanori Inoue, Hideki Yashiro, Tadayoshi Kurata, Masahiro Okada, Masahiro Jinzaki. Computed Tomography-guided Drainage with Modified Trocar Technique Using a Drainaway Drainage Kit. *Interventional Radiology*. 2023 8 130-135

(12) 麻酔科

藤田夏樹, 出野智史, 石渡博昭, 奥田淳, 細井卓司, 梶谷美砂, 菅規久子, 森田慶久. 初回無痙攣電気通電療法直後に無症候性たこつぼ心筋症を発症した1症例. *麻酔*. 2023 72 (6) 556-561

Seki H, Ideno S, Shiga T, Watanabe H, Ono M, Motoyasu A, Noguchi H, Kondo K, Yoshikawa T, Hoshijima H, Hyuga S, Shishii M, Nagai A, Higashi M, Ouchi T, Yasuda K, Kuratani N. Sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor-associated perioperative ketoacidosis: a systematic review of case reports. *J Anesth* 2023 37(3) 465-473

(13) 救急科

竹村成秀, 井上哲也, 光定誠, 折笠英紀, 田熊清継. 病理解剖によって診断された繊維筋性異形成による腹腔内出血の1例. *日本救命医療学会雑誌*. 2023年 37 66-69

田熊清継. 『熱傷診療ガイドライン改訂1年: 変化と進化とさらなる発展』熱傷感染. 熱傷. 2023年 49 164-165

Matsuoka T, Fujishima S, Sasaki J, Gando S, Saitoh D, Kushimoto S, Ogura H, Abe T, Shiraishi A, Mayumi T, Kotani J, Takeyama N, Tsuruta R, Takuma K, Yamashita N, Shiraishi SI, Ikeda H, Shiino Y, Tarui T, Nakada TA, Hifumi T, Otomo Y, Okamoto K, Sakamoto Y, Hagiwara A, Masuno T, Ueyama M, Fujimi S, Yamakawa K, Umemura Y, JAAM Focused Outcomes Research on Emergency Care for Acute Respiratory Distress Syndrome, Sepsis and Trauma (FORECAST) Group and Sepsis Prognostication in Intensive Care Unit and Emergency Room (SPICE) Group. Coagulopathy Parameters Predictive of Outcomes in Sepsis-Induced Acute Respiratory Distress Syndrome: A Subanalysis of the Two Prospective Multicenter Cohort Studies. *Shock*. 2024年 61 89-96

Gonai S, Yoneoka D, Miyoshi T, da Silva Lopes K. A systematic review with pairwise and network meta-analysis of closed reduction methods for anterior shoulder dislocation. *Ann Emerg Med* 2023年. 81 453-465

(14) 教育指導部

津村和夫. 世界における糖尿病のアドボカシー活動とわが国の未来戦略. 糖尿病合併症. 2023年6月 37巻1号. 15-16

津村和大. 糖尿病アドボカシーの新時代 -新たな呼称提案について-. さかえ: 月刊糖尿病ライフ
2024年1月. 64巻1号 5-10

津村 和大. 新・相談コーナー センせい教えてください! 現在どのような糖尿病研究が進んでいる
のですか?(2型糖尿病歴4年、51歳、男性) さかえ: 月刊糖尿病ライフ 63巻6号
Page52-53(2023.06).

津村 和大(川崎市立川崎病院 病態栄養治療部) 【激アツ!糖尿病教室ハイパースライド】(第2章)
患者の心をつかむ★糖尿病教室で使えるハイパースライド&台本 糖尿病網膜症がわかるハイパー
スライド糖尿病ケア+(2436-6935)2023 夏季増刊 Page76-83(2023.06)

(15) 看護部

佐藤江利子. 令和時代のチーム医療～特定看護師と外科医との創傷処置管理システム～. 病院羅針
盤. 2023 14 36-41

7 学会・研究会

(1) 内科

安藤 孝(川崎市立川崎病院 内科), 高木 英恵, 野崎 博之. 当院における選定療養費の変更が入院
までの経過に及ぼした影響. 第120回日本内科学会総会・講演会. 2024年4月. 東京

伊藤 敬(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 川口 隆久, 三崎 美佳, 橋口 明典, 尾田 高志, 安
藤 孝. ステロイド治療不応 IgA 優位沈着性糸球体腎炎に対し感染コントロールで透析離脱できた一
例. 第53回日本腎臓学会東部学術集会 2023年9月. 仙台

三崎 美佳(川崎市立川崎病院 総合内科), 川口 隆久, 伊藤 敬, 小林 絵美, 倉田 忠宜, 橋口 明
典, 安藤 孝. 多発性嚢胞腎に合併した分節性硬化病変を伴う膜性腎症の1例. 第53回日本腎臓学会
東部学術集会. 2023年9月. 仙台

熊谷 聡佑(川崎市立川崎病院 内科), 川口 隆久, 有馬 功一郎, 小林 絵美, 深江 智明, 伯野 大
彦, 高木 英恵, 安藤 孝. 菌血症を背景にQT延長により Torsades de Pointes(TdP)を来したが救命
した透析患者の一例. 第68回日本透析医学会学術集会・総会. 2023年6月. 神戸

川口 隆久(川崎市立川崎病院 内科), 熊谷 聡佑, 有馬 功一郎, 安藤 孝. 不明熱の原因として透
析アミロイドーシスを考えリクセルが有効であった症例. 第68回日本透析医学会学術集会・総
会. 2023年6月. 神戸

古田島 太希(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 大嶋 洋佑, 川口 隆久, 小林 淳二, 小倉 正恒,
前澤 善朗, 多田 隼人, 玉井 博修, 安藤 孝, 野崎 博之. LPLヘテロ欠損症および糖尿病悪化を背
景とした高TG血症による急性膵炎にDKAを合併した1例. 日本内科学会第688回関東地方
会. (2023.07). 2023年7月. 東京

熊谷 聡佑(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 川口 隆久, 有馬 功一郎, 橋口 明典, 高木 英恵,
野崎 博之, 安藤 孝. 短腸症候群による二次性オキサローシスが腎機能障害の原因と考えられた1
例. 日本内科学会第686回関東地方会(2023.05) 2023年5月. 東京

加藤 亜美(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 鈴木 健, 花田 亮太, 山根 剛, 井上 健太郎, 有
泉 健, 高木 英恵, 折笠 英紀, 玉井 博修, 安藤 孝. 高齢HER2陽性大腸癌に抗HER2療法が有効性
と忍容性を認めた1例. 日本内科学会第686回関東地方会(2023.05)2023年5月. 東京

祖田 真奈(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 相馬 裕樹, 佐藤 佑樹, 花田 亮太, 岡山 幹夫,
定平 健, 岡本 真一郎, 折笠 英紀, 高木 英恵, 安藤 孝. 膵頭部に形質細胞腫を形成し破裂を疑
われた多発性骨髄腫の1例. 日本内科学会第690回関東地方会(2023.10)2023年10月 東京

齋藤 直宏(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 玉井 博修, 下寄 啓太郎, 花田 亮太, 町田 雄二郎, 井上 健太郎, 有泉 健, 高木 英恵, 大嶋 洋佑, 安藤 孝. 切除不能肝細胞癌に対する複合免疫療法でサイトカイン放出症候群(CRS)を来した1例. 日本内科学会第691回関東地方会

(2023.11)2023年11月. 東京

布施彰久. 重症筋無力症に対するエフガルチギモドの使用経験からみる適応像とステロイドの減量戦略. 一般演題. 第41回日本神経治療学会学術集会. 2023/11/4. 東京

布施彰久. 当院でのCGRP関連3剤の治療効果を比較したリアルワールドデータ. 一般演題. 第51回日本頭痛学会総会. 2023年12月. 横浜

北菌久雄. 高齢パーキンソン病におけるDBS～DBS術後の患者満足度評価～. 一般演題. 第41回日本神経治療学会学術集会. 2023/11/4. 東京

佐藤翠. 両耳側半盲で発症したアスペルギルス髄膜炎の一例. 一般演題. 第245回日本神経学会関東・甲信越地方会. 2023年6月17日. 東京

吉田昇悟. 脳梗塞の精査でランダム皮膚生検を施行し血管内大細胞型B細胞性リンパ腫の診断となった1例. 一般演題. 日本内科学会第693回関東地方会. 2024/2/10. 東京

三枝信太郎. 創傷を認めなかったが、初診時より破傷風と診断し治療を開始した59歳女性例. 一般演題. 第248回日本神経学会関東・甲信越地方会. 2024/3/2. 東京

吉田昇悟. 若年性アルツハイマー型認知症を発症したフィリピン人女性の一例. 一般演題. 第246回日本神経学会関東・甲信越地方会. 2023/9/2. 東京

桃原理子. 神経性食思不振症として加療されていたが、Musk抗体陽性重症筋無力症を疑い早期治療が奏功した1例. 一般演題. 日本内科学会第687回関東地方会. 2023/6/10. 東京

溝部政仁, 李昊, 扇野圭子, 深江智明, 杉原快, 大塚健悟, 大森奈緒, 折笠英紀, 佐山宏一. 吸引肺動脈血の細胞診によりpulmonary tumor thrombotic microangiopathyの所見を得た一例. 第63回日本呼吸器学会学術講演会. 東京都. 2023. 4

齋藤彩夏, 扇野圭子, 福島貴大, 岩崎俊樹, 宮崎直己, 長島健吾, 朝倉崇徳, 南宮湖, 中鉢正太郎, 寺井秀樹, 児玉亘弘, 佐山宏一, 石井誠, 福永興壱. COVID-19罹患後症状としての不安・抑うつに関する調査結果. 第63回日本呼吸器学会学術講演会. 東京都. 2023. 4

木下雄仁, 岡田真彦, 扇野圭子, 佐山宏一, 小山田吉孝, 仲地一郎, 井上卓, 池村辰之介, 副島研造, 堀内康平, 寺井秀樹, 安田浩之, 川田一郎, 福永興壱. 進行非小細胞肺癌に対するアテゾリズマブ単剤投与の症例集積研究(KLOG007). 第63回日本呼吸器学会学術講演会. 東京都. 2023. 4

大塚健悟, 大森奈緒, 溝部政仁, 李昊, 杉原快, 佐山宏一. 骨髄異形成性症候群加療中に増大したリンパ節に対し, EBUS-TBNAにより診断した結核性縦隔リンパ節炎の一例. 第46回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 横浜市. 2023. 6

伊藤史磨, 佐藤崇, 堀内康平, 荒井大輔, 扇野圭子, 石岡宏太, 寺井秀樹, 池村辰之介, 安田浩之, 仲地一郎, 川田一郎, 井上卓, 小山田吉孝, 寺嶋毅, 佐山宏一, 猶木克彦, 副島研造, 福永興壱. 日本における進行肺癌と診断された患者の医療保険に関する横断的研究. 第64回日本肺癌学会学術集会. 千葉市. 2023. 11

明神聡介, 李慧崇, 古田島太希, 原田修平, 伊藤桂, 深江智明, 伯野大彦, 西澤健也, 末吉浩一郎. Orbital Atherectomy Systemで冠動脈穿孔とワイヤー離断を起こし、ワイヤー回収不成功に終わるもbailoutし得た一例. 第61回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会. 2023年5月13日. 東京

井上健太郎. 臨床倫理の最前線 -ACPをいかに実践するか-. 教育講演. 内科横断的教育セミナー.

2023年12月9日. 東京

高木大歩ら. 閉塞性黄疸を契機に診断に至った胆管浸潤を伴う濾胞性リンパ腫の一例. 一般. 第117

回 日本内視鏡学会関東支部例会. 2023/12/10. 東京

(2) 小児科

阿久津 朱伽. Fontan 術後遠隔期に発熱を伴う二次性肥厚性骨関節症を発症した一例. ポスター.

第126回日本小児科学会学術集会. 2023年4月16日. 東京都港区

阿久津 朱伽. 身体診察の重要性を再認識した、口唇口蓋裂の1例. 口演. 第375回日本小児科学会

神奈川県地方会・総会. 2023年6月24日. 神奈川県横浜市

松尾 基視. 出生直後から上気道狭窄症状を呈した巨大舌根部嚢胞. 口演. 第55回日本小児呼吸器学

会学術集会. 2023年10月7日. 兵庫県豊岡市

有安 大典. 水中毒の治療中に輸液の溶質負荷により血清 Na 濃度が急上昇した一例. ~デスマプレ

シンの使用経験~. ポスター. 第56回日本小児内分泌学会学術集会. 2023年10月20日. 埼玉県大宮

市

柴田 浩憲. 抗利尿ホルモン補充療法を要した視床下部の完全分離を伴う全前脳胞症の1例. ポスタ

ー. 第56回日本小児内分泌学会学術集会. 令和5年10月20日. 埼玉県大宮市

大河内 達也. 5歳児健診の頭囲拡大より診断した閉塞性水頭症の1例. 口演. 第379回日本小児科学

会神奈川県地方会. 2024年3月9日. 神奈川県横浜市

(3) 外科

和多田 晋, 神人 悠, 女屋 悠, 中間 麻矢子, 菊池 直哉, 雨宮 隆介, 菊池 弘人, 三原 規奨,

小倉 正治, 萬谷 京子, 市東 昌也. 上腸間膜動脈閉塞症(SMAO)に対するIVR-ウロキナーゼを使え

なくなっただう変わる- 消化器手術も行う血管外科医が考える急性上腸間膜動脈閉塞症戦略. 日

本腹部救急医学会. 2024年3月. 北九州

菊池 直哉(川崎市立川崎病院 血管外科), 和多田 晋. 短腸症候群患者に対するGLP-2アナログ製剤

の使用経験. 日本脈管学会. 2023年10月. 横浜

石井 達也(川崎市立川崎病院), 和多田 晋, 菊池 直哉. 長期閉塞していた人工血管を開通させ長

期開存している大腿-膝上膝窩動脈バイパスの1例. 日本脈管学会. 2023年10月. 横浜

細川 恭佑(川崎市立川崎病院), 和多田 晋. "正中弓状靭帯圧迫症候群による前上腭十二指腸動脈

瘤破裂の1例". 日本血管外科学会. 2023年5月. 東京

松原 健太郎, 尾原 秀明, 新谷 恒弘, 和多田 晋, 小野 滋司, 藤村 直樹, 藤井 琢, 関本 康人,

下河原 達也, 林 啓太, 林 応典, 細川 恭佑, 菊池 直哉, 鳥崎 友紀子, 北川 雄光. 総大腿動脈

閉塞性病変に対するウシ心膜パッチ(Xenosure)を用いた血行再建の治療成績. 日本血管外科学

会. 2023年5月. 東京

細川 恭佑(川崎市立川崎病院 外科), 和多田 晋, 鈴木 佳透, 近藤 崇之, 雨宮 隆介, 三原 規奨,

小倉 正治, 中村 哲也, 萬谷 京子, 相浦 浩一, 市東 昌也, 掛札 敏裕. 産婦人科よりコンサルト

されたヘパリン Ca に対するアレルギーを認めた静脈血栓合併妊娠の1例. 日本外科学会. 2023年4

月. 東京

関本 康人, 尾原 秀明, 松原 健太郎, 内田 智夫, 朝見 淳規, 原田 裕久, 新谷 恒弘, 和多

田 晋, 小野 滋司, 藤村 直樹, 藤井 琢, 下河原 達也, 林 啓太, 林 応典, 細川 恭佑, 菊池 直

哉, 鳥崎 友紀子, 北川 雄光. 他施設データを用いた EVAR 遠隔期成績の検討と今後の展望. 日本外

科学会. 2023年4月. 東京

新谷 恒弘, 菊池 直哉, 尾原 秀明, 松原 健太郎, 北 英典, 下河原 達也, 林 啓太, 原田 裕久, 藤村 直樹, 林 応典, 小野 滋司, 浅見 淳規, 藤井 琢, 関本 康人, 鳥崎 友紀子, 和多田 晋, 細川 恭介, 北川 雄光. CLTI(包括的高度慢性下肢虚血)の治療選択 血管外科医にとってのバイパス手術の立ち位置とは? CLTI における膝下病変に対する術式選択とその成績. 日本外科学会. 2023年4月. 東京

小倉 正治. 頭頸部癌放射線照射後の食道癌における胸腔内再建法. 一般口演. 第78回日本消化器外科学会総会. 2023年7月. 函館市

(4) 呼吸器外科

岩丸有史, 奥井将之, 澤藤誠. 鑑別に苦慮した異所性胸腺由来の胸腺腫の1切除例. 示説. 第64回日本肺癌学会学術集会. 2023年11月. 千葉

岩丸有史, 奥井将之, 澤藤誠. 気管支形成術後に残存肺の機能回復が得られた左主気管支腫瘍の1切除例. 示説. 第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 2024年6月. 大阪

(5) 整形外科

西村空也, 伊藤修平, 美馬雄一郎, 今本多計臣, 小柳貴裕, 上田誠司. びまん性特発性骨増殖症の進行度が椎体骨折の手術成績に与える影響. ポスター. 第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2023年4月. 札幌

石原啓成, 西脇正夫, 田邊蓉子, 伊藤ゆりか, 廣瀬俊啓, 養田裕平, 伊藤修平, 瀬戸貴之, 寺坂幸倫, 西村空也, 山口健治, 小宮浩一郎, 上田誠司, 堀内行雄. 手指骨折治療 手指基節骨・中手骨骨折に対するナックルキャスト固定法の治療成績. パネルディスカッション. 第178回神奈川整形災害外科研究会. 2023年6月. 横浜

石原啓成, 西脇正夫, 伊藤ゆりか, 時枝啓太, 寺坂幸倫, 三戸一晃, 堀内行雄. 発症後3年で神経束のくびれが残存した特発性前骨間神経麻痺の1例. 一般口演. 第36回日本肘関節学会学術集会. 2024年3月. 札幌

田邊蓉子, 小宮浩一郎, 上田誠司, 西脇正夫, 山口健治, 西村空也, 寺坂幸倫, 瀬戸貴之, 伊藤修平, 養田裕平, 石原啓成, 廣瀬俊啓, 伊藤ゆりか. 人工膝関節全置換術後4年で発症した遅発性反復性関節血症に対し, Interventional Radiology が奏功した1例. 一般口演. 第178回神奈川整形災害外科研究会. 2023年6月. 横浜

養田裕平, 小宮浩一郎. 当院におけるTKAアプローチの違いによる術後早期経過の比較検討. ポスター. 第1回日本膝関節学会. 2023年12月. 横浜

養田裕平, 小宮浩一郎, 山口健治. 脛骨脆弱性骨折を伴った変形性膝関節症に対する治療経験. ポスター. 第54回日本人工関節学会. 2024年2月. 京都

伊藤修平, 廣瀬俊啓, 西村空也, 上田誠司. びまん性特発性骨増殖症を伴う胸腰椎骨折に対するSEPS/DEPSを用いた後方固定術の有用性の検討. ポスター. 第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2023年4月. 札幌

廣瀬俊啓, 西村空也, 伊藤修平, 上田誠司. セメント注入型スクリューにおけるセメント漏出の発生頻度評価. ポスター. 第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2023年4月. 札幌

伊藤ゆりか, 西脇正夫, 田邊蓉子, 廣瀬俊啓, 石原啓成, 養田裕平, 伊藤修平, 瀬戸貴之, 寺坂幸倫, 西村空也, 山口健治, 小宮浩一郎, 上田誠司, 堀内行雄. 楔状開大式橈骨矯正骨切り術と尺側

手根屈筋腱延長術を行った Madelung 変形の 1 例. 一般口演. 第 178 回神奈川整形災害外科研究会. 2023 年 6 月. 横浜

瀬戸貴之、田邊蓉子、伊藤ゆりか、廣瀬俊啓、石原啓成、養田裕平、伊藤修平、寺坂幸倫、西村空也、山口健治、西脇正夫、小宮浩一郎、上田誠司、堀内行雄. 肩甲骨周囲膿瘍に対し超音波ドレナージを施行した 1 例. 一般口演. 第 178 回神奈川整形災害外科研究会. 2023 年 6 月. 横浜

伊藤修平、西村空也、田邊蓉子、伊藤ゆりか、石原啓成、廣瀬俊啓、養田裕平、寺坂幸倫、瀬戸貴之、山口健治、西脇正夫、小宮浩一郎、上田誠司、堀内行雄. 化膿性椎間板炎による敗血症と診断されたが、治療経過中に DISH を伴う腰椎破裂骨折が判明し、DEPS を用いた脊椎固定術を施行した 1 例. 一般口演. 第 178 回神奈川整形災害外科研究会. 2023 年 6 月. 横浜

(6) リハビリテーション科

根本航. 急性期片麻痺患者に対し、装具療法・下肢体幹機能訓練を実施し歩行能力の改善を認めた症例. 一般演題. 第 40 回神奈川県理学療法士学会. 2024 年 2 月 4 日. オンライン

有田早苗. 左大腿骨頸部骨折術後に脳梗塞を呈し、運動指示入力に難渋した症例の経過報告. 一般演題. 第 40 回神奈川県理学療法士学会. 2024 年 2 月 4 日. オンライン

久永希. 橈骨遠位端骨折の掌側ロッキングプレート固定術後の前腕回旋運動の時期. 一般演題. 第 35 回日本ハンドセラピー学会学術集会. 2023 年 4 月 22 日、23 日. 東京都

久永希. 橈骨遠位端骨折の掌側ロッキングプレート固定術後の前腕回旋運動. 一般演題. 第 15 回日本手関節ワークショップ. 2023 年 9 月. 新潟県

門脇優. 重症 COVID-19 患者に対し、感染症棟から自宅退院まで作業療法介入した事例. 一般演題. 第 57 回日本作業療法学会. 2023 年 11 月 10 日. 沖縄県

佐々木智. 複数の高次脳機能障害の気づきの階層に応じた介入手段の検討. 一般演題. 第 57 回日本作業療法学会. 2023 年 11 月 10 日. 沖縄県

矢崎音好. 当院における産後マタニティセラピーの運用方法と調査結果. 表彰候補演題. 第 9 回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会学術大会. 2023 年 11 月 25 日. 岡山県

中村優太. リハビリテーション科における病棟リーダー制度について. 一般演題. 第 61 回全国自治体病院学会. 2023 年 8 月 31 日. 北海道

榎吉彦. YouTube を活用した動画によるリンパ浮腫指導とフレイル予防のためのセルフエクササイズ指導. 一般演題. リハビリテーション医療 DX 研究会. 第 1 回学術集会. 2023 年 4 月 22 日. 沖縄県

小島巖. 高齢心不全患者における栄養状態の変化と退院時 ADL との関連. 一般演題. 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会. 2023 年 7 月 14 日. 兵庫県

木村泰介. 慢性期脳卒中患者における歩容と歩行速度の関係. 一般口演. 第 60 回日本リハビリテーション医学会学術集会. 令和 5 年 6 月 1 日. 福岡市

(7) 脳神経外科

井上賢. 脳腫瘍術後の髄膜炎による第四脳室出口閉塞に対し、内視鏡下の Magendi 孔形成および第三脳室底開窓が有効であった 1 例. ポスター. 日本脳神経外科学会第 82 回学術総会. 2023 年 10 月 25 日. 横浜

井上賢. 脳腫瘍術後の髄膜炎による治療抵抗性の水頭性が、第四脳室出口閉塞となり、内視鏡治療が有効であった 1 例. 口演. 第 30 回日本神経内視鏡学会. 2023 年 11 月 16 日. 名古屋

井上賢. もやもや病に対する脳血管再建術の側頭筋膜浅層を用いた開閉頭の工夫. ポスター STROKE2024. 2024 年 3 月 7 日. 横浜

井上賢. 孤立性の横-S 状静脈洞部硬膜動静脈瘻に対し、カテ室での直接穿刺を行った 1 例. ポスター. 第 39 回日本脳神経血管内治療学会学術集会. 2023 年 11 月 24 日. 京都

井上賢. 側頭筋膜の Deep layer と Superficial layer を分離した Flap 作成. 口演. 第 11 回手技にこだわる脳神経外科ビデオカンファレンス. 2024 年 1 月 27 日. 東京

(8) 皮膚科

新川紗由香, 松本薫郎, 田原海, 西本周平. 全身性エリテマトーデス患者の大腿に生じた網状紅斑性ムチン沈着症の 1 例. 一般演題. 第 907 回東京地方会. 2023 年 7 月 8 日. 東京

長竹茉奈, 新川紗由香, 松本薫郎, 田原海, 小林研太, 片山陸, 西本周平. 腹腔鏡下卵巣嚢腫摘出後数年の経過で臍創部に生じた皮下嚢腫 3 例の検討. 一般演題. 第 75 回日本皮膚科学会西部支部学術大会. 2023 年 9 月 16 日. 沖縄

新川紗由香, 田原海, 西本周平. 陰嚢に懸垂性に発育した巨大な表在性血管粘液腫の 1 例. 一般演題. 第 910 回東京地方会. 2024 年 2 月 17 日. 東京

田原海, 新川紗由香, 田口博章, 西本周平. 自己抗体検査が陰性であった限局皮膚硬化型全身性強皮症の 1 例. 一般演題. 第 910 回東京地方会. 2024 年 2 月 17 日. 東京

(9) 泌尿器科

倉堀智一, 茂田啓介, 豊原雅人, 大村美波, 梅田浩太, 勝井政博, 折笠英紀, 原智. 化学療法後下大静脈合併切除を含む集学的治療により完全寛解を得た mixed germ cell tumor の 1 例. 一般口演. 第 100 回神奈川県泌尿器科医会. 2023 年 11 月 25 日. 横浜市

豊原雅人, 大村美波, 梅田浩太, 茂田啓介, 勝井政博, 原智, 折笠英紀. ニボルマブ、イピリムマブ投与後に下垂体性副腎皮質機能低下症と腎機能障害を認めた腎細胞癌の一例. 一般口演. 第 67 回日本泌尿器科学会神奈川県地方会. 2023 年 9 月 28 日. 横浜市

倉堀智一, 大村美波, 梅田浩太, 勝井政博, 大門達明, 原智. 巨大前立腺結石の 1 例. 一般口演. 第 68 回日本泌尿器科学会神奈川県地方会. 2024 年 2 月 15 日. 横浜市

梅田浩太, 岩澤智裕, 小森貴大, 茂田啓介, 勝井政博, 福本桂資郎, 原智. “当院における骨転移を有する去勢抵抗性前立腺 当院における前立腺癌に対する Ra-223 の有効性の検討”. ポスター発表. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. 2023 年 3 月 21 日. 神戸市

梅田浩太, 原智, 豊原雅人, 大村美波, 茂田啓介, 勝井政博. 膀胱癌に対する術式ごとの膀胱全摘除術の治療成績について. ポスター発表. 第 37 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会. 2023 年 11 月 10 日. 米子市

勝井政博, 服部盛也, 豊原雅人, 大村美波, 梅田浩太, 茂田啓介, 折笠英紀, 原智. 左腎細胞癌術後の遺残尿管腫瘍に対し、腹腔鏡下遺残尿管全摘除術を施行した 1 例. 一般口演. 第 37 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会. 2023 年 11 月 11 日. 米子市

(10) 眼科

片山泰一郎, 明田直彦, 三田村浩人, 川北哲也. 両眼の難治性角膜潰瘍に対し複数回の羊膜移植が有効だった 1 例. ポスター. 角膜カンファレンス 2024. 2024 年 2 月. 東京都大田区

矢島夢実, 長谷川岳史, 片山泰一郎, 藤岡俊平, 小澤紘子, 三田村浩人. 34G 針を用いて角膜内皮移植術 (DSAEK) を施行した 1 例. ポスター. 角膜カンファレンス 2024. 2024 年 2 月. 東京都大田区

小澤紘子. ポリコナゾールにより可逆的双極細胞機能障害を生じた 1 例. 一般講演. 第 70 回日本臨床視覚電気生理学会. 2024 年 2 月. 北九州市

(11) 耳鼻咽喉科

中山梨絵. 甲状腺乳頭癌・低分化癌・未分化癌合併症例の治療経験. 一般口演. 第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会. 2023年6月. 大阪

高原美希. 化学放射線療法にて局所制御可能であったものの、急激な経過をたどった若年上咽頭癌の1例. 一般口演. 第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会. 2023年6月. 大阪

田中祥子. 術中透視が有効であった下咽頭異物の一例. 一般口演. 第203回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会神奈川県地方部会. 2023年7月. 横浜

(12) 産科

藤田真優子, 金善恵, 大石真希, 大橋千絵, 石垣順子, 染谷健一, 中田さくら. 帝王切開癒痕部妊娠に対して全腹腔鏡下子宮全摘術を施行した1例. 第440回神奈川産科婦人科学会学術講演会. 9月3日 川崎市

染谷健一, 渦川真優子, 椎名美季, 大石真希, 大橋千絵, 石垣順子, 金善恵, 岩田壮吉, 中田さくら. 癒着を伴う子宮内膜症合併のTLHに対する、発光式尿管カテーテル (IRIS) の有用性の検討. 第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会. 9月15日-9月17日. 滋賀県・びわ湖大津プリンスホテル
大石真希, 染谷健一, 椎名美季, 石垣順子, 金善恵, 林保良, 中田さくら. 子宮奇形を伴う重複子宮に対する腹腔鏡下子宮全摘術の1例. 第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会. 9月15日-9月17日. 滋賀県・びわ湖大津プリンスホテル

椎名美季, 林保良, 渦川真優子, 大石真希, 大橋千絵, 石垣順子, 金善恵, 染谷健一, 中田さくら.

Hysteroscopic management of intrauterine pathologies with Lin snare system and Lin biopsy forceps : report a series of 870 cases -. 第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会.

9月15日-9月17日. 滋賀県・びわ湖大津プリンスホテル

大石真希, 金善恵. 完全中隔子宮に対し3D-sonohysterographyを用いて評価を行い、TCRで中隔切除を行った1例. 第35回日本超音波学会関東甲信越地方会学術集会. 10月14日-10月16日. 東京
中田さくら. 特定妊婦について当院での取り組み. 川崎市助産師会研修会. 2024年2月24日. 川崎市

(13) 麻酔科

瀬上和貴, 阿瀬千咲, 山谷直大, 五十嵐達, 森崎浩, 増田祐也. 骨形成合併妊娠における帝王切開に対する脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔の経験. ポスター発表. 日本区域麻酔学会第10回学術集会. 2023年4月15日. 大阪

出野智史. "U40 シンポジウム 古きをたずねて新しきを知る ~U40の挑戦~1. U40活動紹介". シンポジウム. 日本麻酔科学会第70回学術集会. 2023年6月3日. 神戸

水岡史明, 瀬上和貴, 出野智史, 高橋京助, 梶谷美砂, 森田慶久. 左肺術後で換気障害を伴う患者の対側肺異時性肺癌手術において気管支ブロッカーを用いた選択的右下葉ブロックを施行した一例. ポスター発表. 関東甲信越・東京支部第63回合同学術集会. 2023年9月2日. 東京都新宿区
古川貴子, 石渡博昭, 平畑枝里子, 奥田淳, 菅規久子, 森田慶久. "キアリ奇形1型合併妊娠に対し全身麻酔下での選択的帝王切開術を施行した一例. ポスター発表. 関東甲信越・東京支部第63回合同学術集会. 2023年9月2日. 東京都新宿区

菅規久子, 奥田淳, 高橋京助, 森田慶久. 緊急帝王切開での麻酔導入時にアナフィラキシーショックを発症し、弛緩出血を来した一例. ポスター発表. 第51回日本集中治療医学会学術集会. 2024年3月14日. 札幌

(14) 救急科

橋本拓人, 上野浩一, 田熊清継. 南アフリカ共和国におけるプレホスピタルケア. 一般演題. 第4回神奈川県救急科医学会学術集会. 2023年10月. 横浜市

浦上尚也, 上野浩一, 田熊清継. 精神疾患を背景にDKAとNOMIを合併した一例. 一般演題. 第4回神奈川県救急科医学会学術集会. 2023年10月. 横浜市

根本悠太, 上野浩一, 田熊清継. 運動後に中脳周囲非動脈瘤性くも膜下出血を呈した1例. 一般演題. 第74回日本救急医学会関東地方会学術集会. 2024年2月. さいたま市

浦上尚也, 上野浩一, 田熊清継. 精神科受診歴のない若年女性が鎮咳薬を過量内服しセロトニン症候群を発症した1例. 一般演題. 第74回日本救急医学会関東地方会学術集会. 2024年2月. さいたま市

橋本拓人, 上野浩一, 田熊清継. プレホスピタルで救急救命士による骨髄路確保を実施した症例 in South Africa. 一般演題. 第61回日本救急医学会関東地方会救急隊学術研究会. 2024年2月. さいたま市

田熊清継. 「熱傷感染管理のストラテジー」熱傷患者をより多く救命するために PBI と感染対策. 一般演題. 第49回日本熱傷学会学術集会. 2023年5月. 東京都新宿区

阿部智一, 小倉裕司, 白石淳, 久志本成樹, 齋藤大蔵, 藤島清太郎, 真弓俊彦, 椎野泰和, 中田孝明, 樽井武彦, 一二三亨, 大友康裕, 岡本好司, 梅村穰, 小谷穰治, 阪本雄一郎, 佐々木淳一, 白石振一郎, 田熊清継, 鶴田良介, 萩原章嘉, 山川一馬, 増野智彦, 武山直志, 山下典雄, 池田弘人, 上山昌史, 藤見聡, 丸藤哲. 日本の敗血症患者の特徴・管理・予後. 一般演題. 第51回日本救急医学会学術集会. 2023年11月. 東京都文京区

(15) 薬剤部

本間優希. 血小板増多による偽性高カリウム血症を認めた術後患者に対する病棟薬剤師の薬学的介入事例. 学会. 第61回全国自治体病院学会. 2023年8月. 札幌市

(16) 検査科

屋代ふみ. 健診データの分析と共有による糖尿病チーム医療の質向上と臨床検査技師の貢献. 一般演題. 第10回日本糖尿病協会年次学術集会. 2023年7月. 京都

三津田太郎. 緊急異型適合血輸血症例の解析と適正輸血の推進. ポスターセッション. 第61回全国自治体病院学会. 2023年8月. 北海道

(17) 食養科

小野玲子. 入院センターにおける栄養士業務の効果. ポスターセッション. 全国自治体病院協議会. 2023年9月. 札幌

(18) 医療情報システム管理室

檜林敦. 次世代電子母子手帳の開発と今後の展望～医療の現場と個人に寄りそう視点から～. KISTEC Innovation Hub 2023. 2023年11月. 川崎市

檜林敦. 「2文書6情報」共有に向けた電子カルテの事前準備. 第43回医療情報学連合大会・第24回日本医療情報学会学術集会. 2023年11月. 神戸市

檜林敦. 院内安全ラウンドを契機とした設定変更事例. 電子カルテフォーラム「利用の達人」導入運用ノウハウ事例共有会. 2023年11月. 川崎市

檜林敦. 帰ってきた、当院で行っている工夫たち. 電子カルテフォーラム「利用の達人」導入運用ノウハウ事例共有会. 2023年11月. 川崎市

檜林敦. 小児科標榜病院の基礎データとしての「病院調査」. 第 126 回日本小児科学会学術集会. 2023 年 4 月. 東京都港区

8 講演会等

(1) 内科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和 5 年 4 月 4 日	研修管理委員会	井上 健太郎	輸液はじめの一步	川崎病院
令和 5 年 4 月 4 日	研修管理委員会	井上 健太郎	患者さんが入院したら	川崎病院
令和 5 年 4 月 22 日	読売・日本テレビ文化センター	北菌 久雄	パーキンソン病と共に歩む力をつける～知っておきたい治療のあれこれ～	TKP ガーデンシティ渋谷カンファレンスルーム(Web)
令和 5 年 5 月 18 日	川崎市立川崎病院市民公開講座	北菌 久雄	見逃してはいけない てんかん	川崎病院
令和 5 年 9 月 8 日	第 1 回川崎市立川崎病院認知症疾患医療センター地域連携会議	北菌 久雄	認知症患者の行方不明者をどう守るか、どう予防する	川崎病院
令和 5 年 9 月 9 日	川崎区医師会市民公開講座	北菌 久雄	不眠～自分の眠りを見直してみませんか～	ステーションコンファレンス川崎
令和 5 年 9 月 26 日	Boston Scientific 社	花田 亮太	当院でのガイドワイヤーの選択 Venty の使用経験	Web 講演会
令和 5 年 10 月 3 日	川崎市消防局	井上 健太郎	Advance Care Planning	幸消防署
令和 5 年 10 月 10 日	川崎市消防局	井上 健太郎	Advance Care Planning	幸消防署
令和 5 年 10 月 17 日	川崎市立川崎病院オレンジサロンミニ講座	北菌 久雄	認知症について	川崎病院
令和 5 年 11 月 15 日	NST 部会	井上 健太郎	いろいろのいろは	川崎病院
令和 6 年 1 月 17 日	ヴィアトリス製薬	井上 健太郎	CKD と消化器疾患～虚血・出血・便秘異常～	Web 講演会
令和 6 年 1 月 23 日	Medixpost DBS 基礎セミナー	北菌 久雄	すべての脳神経内科医に届けたい DBS 適応の実際	X-FLOOR 川崎 (Web 配信)

令和6年1月25日	認知症ケア委員会 研修会	北菌 久雄	アルツハイマー病の新薬 レカネマブ当院の診療体制	川崎病院
令和6年2月9日	令和5年度第2回 地域ケア懇談会	北菌 久雄	認知症の最新治療	川崎病院
令和6年3月6日	エーザイ株式会社	井上 健太郎	Lenvatinib + TACE が奏 効し Conversion Surgery に至った肝細胞癌の症例 からの考察	Web 講演会
令和6年3月8日	川崎市認知症疾患 医療センター地域 連携会議	北菌 久雄	アルツハイマー病の新薬 レカネマブ当院の診療体制	川崎病院

(2) 小児科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和5年7月28日	川崎市小児科医会 第424回川崎市小 児科医会症例検討 会	佐藤 光	3歳男児 発熱を伴う左 手の痛み	Web 講演会
令和5年9月21日	川崎市小児科医会 第316回川崎市小 児科医会研究研修 会	有安 大典	くる病の診断と治療	川崎市医師 会館 Web 講演会
令和6年2月16日	川崎市小児科医会 第429回川崎市小 児科医会症例検討 会	大河原 達也	5歳児健診の頭囲拡大より 診断した閉塞性水頭症の1 例	Web 講演会
令和6年2月16日	川崎市小児科医会 第429回川崎市小 児科医会症例検討 会	佐藤 光	間欠的な夜間の下肢痛で 発症した亜急性骨髄炎の6 歳女児例	Web 講演会
令和6年2月16日	川崎市小児科医会 第429回川崎市小 児科医会症例検討 会	安納 あつこ	特徴的な成長曲線であっ たネフロン癆の1例	Web 講演会

(3) 新生児内科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和5年7月 28日	川崎市小児科医会 第424回川崎市小 児科医会症例検討 会	上田 明歩	生後早期に吸気性喘鳴、 SpO2 低下を来した巨大甲 状舌管嚢胞の一例	Web 講演会

(4) 外科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和6年1月 31日	看護部	萬谷 京子	がん看護に関する総合的 な研修の講演	川崎病院
令和6年3月6 日	サービス 向上委員会	萬谷 京子	説明の質向上を目指して (接遇研修)	川崎病院

(5) 脳神経外科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和5年4月 22日	読売テレビ	片山 真	パーキンソン病に対する 脳深部刺激療法(DBS)につ いて	Web 講演会
令和5年8月4 日	ボストン・サイエ ンティフィック	片山 真	パーキンソン病とDBS	川崎病院
令和5年10月 25日	Baxter 日本脳神経外科学 会第82回学術総 会	井上 賢	超急性期の内視鏡下血腫 除去のコツとピットフォ ール	パシフィコ 横浜
令和5年12月 5日	エーザイ株式会社	片山 真	転移性脳腫瘍とてんかん	Web 講演会
令和6年2月2 日	Novocure Japan 株 式会社	片山 真	NovoTTFields : 一市中病院 での経験	Web 講演会
令和6年3月2 日	MIC 神奈川	片山 真	脳神経外科の病気と治療 について通訳に知ってお いてほしい基礎知識	神奈川県民 ホール

(6) 整形外科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和5年5月 26日	川崎市立川崎病院	西村 空也	"びまん性特発性骨増殖症 の進行度評価とその臨床 的意義－骨粗鬆症治療も 含めて－	ステーショ ンコンファ レンス川崎
令和5年7月 27日	川崎市立川崎病院	小宮 浩一郎	ロボット手術支援人工膝 関節置換術の導入	ステーショ ンコンファ レンス川崎
令和5年8月 21日	川崎市立川崎病院	西村 空也	市民公開講座：歩くことを あきらめない－腰の痛み と脚のしびれによる歩き にくさの原因と治療－	川崎病院
令和5年8月 31日	第一三共株式会社	西村 空也	高齢者の腰椎疾患を考え る－神経障害性疼痛の管 理を中心に－	ソリッドス クエア西館
令和5年9月	日本骨折治療学会	西脇 正夫	骨折保存的治療と外固定 法	Web 講演会
令和5年9月 29日	川崎市立川崎病院	小宮 浩一郎	市民公開講座：人生 100 年 を歩む－人工膝関節置換術 について－	川崎病院
令和5年10月 3日	第一三共株式会社	西村 空也	腰椎疾患の診断と治療－ 痛みの管理も含めて－	カルッツか わさき
令和6年3月7 日	川崎市整形外科医 会	西村 空也	びまん性特発性骨増殖症 を伴う椎体骨折の治療戦 略－骨粗鬆症治療も含め て－	ホテル精養 軒

(7) リハビリテーション科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和5年4月 11日	教育指導部	阿部 玲音	リハビリテーション医学 と当院のリハビリテーシ ョン科	川崎病院
令和5年5月 19日	早期離床推進部会	阿部 玲音	早期離床とは	川崎病院
令和5年5月 25日	早期離床推進部会	木村 泰介	院内研修会 (ADL 評価法・FIM について)	川崎病院

令和5年5月 31日	川崎南部摂食嚥 下・栄養研究会	阿部 玲音	嚥下障害の検査について	Web 講演会
令和5年11月 13日	褥瘡対策委員会	岡野 将也	褥瘡予防のポジショニン グ、車椅子座位での除圧方 法について	川崎病院

(8) 皮膚科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和6年2月 21日	幸区医師会	西本 周平	アトピー性皮膚炎治療の 最近の話題	

(9) 泌尿器科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和5年6月 16日	泌尿器科	原 智	第10回川崎泌尿器科病診 連携会	川崎病院

(10) 放射線診断科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和5年12月 から	医療放射線管理委 員会	堀口 将生	医療放射線の安全利用	Web 講演会

(11) 歯科口腔外科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和5年6月 21日	NST・摂食嚥下支援 チーム部会	神宮 靖子	基本の口腔ケア	川崎病院
令和6年2月2 日	川崎市医師会	鬼澤 勝弘	日常臨床のこんな時どう する Part 2	ミューザ 川崎

(12) 教育指導部

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和5年5月 17日	メディカル・プリン シプル社	津村 和大	川崎市立 川崎病院 の魅 力・豊富な臨床経験 と 手 厚い指導・	Web 講演会
令和5年7月 11日	川崎市立川崎病院 臨床研究支援室	津村 和大	2023 年度川崎病院研究支 援セミナー「学会発表・研 究活動を始めるときの勘 所」	川崎病院
令和5年7月 15日	エムスリーキャリ ア株式会社	津村 和大	川崎市立 川崎病院 の魅 力・豊富な臨床経験 と 手 厚い指導・	Web 講演会
令和5年7月 17日	株式会社マイナビ	津村 和大	川崎市立 川崎病院 の魅 力・豊富な臨床経験 と 手 厚い指導・	Web 講演会
令和5年11月 21日	株式会社マイナビ	津村 和大	川崎市立 川崎病院 の魅 力・豊富な臨床経験 と 手 厚い指導・	Web 講演会

(13) 検査科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和5年5月 17日	NST・摂食嚥下支援 チーム部会	小林 優希	当院における CONUT 変法の 活用	川崎病院

(14) 食養科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和5年11月 13日	NST・摂食嚥下支援 チーム部会	齋藤 春子	褥瘡回診実況中継～多職 種連携の実際～	川崎病院

(15) 看護部

188 ページ参照

9 市民対象イベント（当院主催）

(1) 市民公開講座

実施日	講師	演題	開催場所
令和5年5月18日	北 菌 久 雄	「見逃してはいけないてんかん」	川崎病院講堂
令和5年8月21日	西 村 空 也	「歩くことをあきらめない 腰の痛みと脚のしびれによる歩きにくさの原因と治療」	川崎病院講堂
令和5年9月29日	小 宮 浩一郎	「人生100年時代を歩む-人工関節置換術について-」	川崎病院講堂
令和5年11月29日	三田村 浩 人	「ここまで進化した！当院の最新の白内障手術」	川崎病院講堂
令和6年2月21日	角 美 帆	「大切な皮ふを守るために -褥瘡ケアを学ぶ-」	川崎病院講堂
令和6年3月から	安 藤 孝	A simple story about high blood pressure 1	YouTube 配信 (英語版)

川崎市立川崎病院年報
第59号（令和5年度版）
令和7年3月1日発行

編集・発行 川崎市立川崎病院
〒210-0013 川崎市川崎区新川通12番1号
電 話 044 (233) 5521(代)
F A X 044 (245) 9600
川崎病院ホームページ (<https://www.hospital-kawasaki.city.kawasaki.jp/>)